

平安京左京三条三坊十町  
二条殿御池城跡

2015年

古代文化調査会







平安京左京三条三坊十町  
二条殿御池城跡

2015年

古代文化調査会



## 例　　言

- 1 本書は、古代文化調査会が京都市中京区烏丸通御池上る二条殿町 548-1 他においてマンション建設に伴い実施した平安京左京三条三坊十町、二条殿御池城跡（14H042）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、大和ハウス工業株式会社より委託を受けた古代文化調査会の上村憲章が担当した。
3. 調査にあたっては、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課の指導を受けた。
4. 本書の編集・執筆は上村がおこなった。
5. 図面及び遺構・遺物の整理、製図は上村がおこない、遺物の実測は板谷桃代・水谷明子がおこなった。
6. 本書で使用した方位及び座標の数値は世界測地系（新測地系）平面直角座標系VIによる。記載した数値は m 単位で、水準は T.P.（東京湾平均海面高度）である。
7. 本書で使用した地図は、国土地理院発行の 25,000 分の 1（京都東北部・同西北部）、京都市都市計画局発行の 2,500 分の 1 の地図（聚楽廻・御所・壬生・三条大橋）を調整し、使用した。
8. 土壌及び土器・瓦類の色調の表記は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』に準じた。
9. 遺物番号は実測図・写真ともに共通している。
10. 発掘調査及び遺物整理に際して、下記の方々の御指導・御協力を得ることができた。記して感謝の意を表します。（所属・敬称略、五十音順）

家原圭太 馬瀬智光 奥井智子 佐藤 渉 鈴木久史 西森正晃 長谷川行孝

平野和彦 堀 大輔 宮原健吾

(株) 明輝建設 (株) 大高建設 京都遺跡調査会 (公財) 京都市埋蔵文化財研究所

(有) 京都編集工房 大和ハウス工業 (株)

## 本文目次

平安京左京三条三坊十町・二条殿御池城跡

I 調査の経緯	1
II 調査の経過	1
III 遺構	4
IV 遺物	10
V 小結	16

## 図版目次

図版 1	遺跡 第 1 調査区第 1 面平面実測図
図版 2	遺跡 第 1 調査区第 2 面平面実測図
図版 3	遺跡 第 1 調査区第 3 面平面実測図
図版 4	遺跡 第 1 調査区第 4 面平面実測図
図版 5	遺跡 第 1 調査区第 5 面平面実測図
図版 6	遺跡 第 1 調査区第 6 面平面実測図
図版 7	遺跡 第 1 調査区南壁実測図
図版 8	遺跡 第 1 調査区北壁実測図
図版 9	遺跡 第 1 調査区西壁実測図
図版 10	遺跡 第 2 調査区第 1 面平面図・第 2 面平面図
図版 11	遺跡 第 2 調査区壁面実測図
図版 12	遺跡 1 第 1 調査区調査前風景（東から） 2 第 1 調査区第 1 面西部（北から）
図版 13	遺跡 1 第 1 調査区第 2 面西部（北から） 2 第 1 調査区第 3 面全景（東から）
図版 14	遺跡 1 第 1 調査区第 3 面西部（東から） 2 第 1 調査区第 4 面全景（東から）
図版 15	遺跡 1 第 1 調査区第 5 面全景（東から）

- 2 第1調査区第6面全景（東から）
- 図版16 遺跡 1 第1調査区溝240（西から）  
2 第1調査区溝240（東から）  
3 第1調査区溝240（西から）  
4 第1調査区溝240セクション（西から）  
5 第1調査区Y-22,002mセクション（西から）  
6 第1調査区Y-21,998mセクション（西から）  
7 第1調査区柱穴315（南から）  
8 第1調査区柱穴368（南から）
- 図版17 遺跡 1 第1調査区柱穴351（西から）  
2 第1調査区柱穴272（西から）  
3 第1調査区柱穴283（北から）  
4 第1調査区柱穴325（西から）  
5 第1調査区柱穴290（西から）  
6 第1調査区土壤135・139（西から）  
7 第1調査区土壤148 磚敷部分（南から）  
8 第1調査区土壤155 土器出土状況（西から）
- 図版18 遺跡 1 第2調査区調査前風景（南から）  
2 第2調査区NE区第1面（南東から）
- 図版19 遺跡 1 第2調査区SE区第1面（南東から）  
2 第2調査区NW区第1面（西から）
- 図版20 遺跡 1 第2調査区NE区第2面、溝450南北（東から）  
2 第2調査区NE区第2面、溝450南北（南西から）
- 図版21 遺跡 1 第2調査区SE区第2面、溝450南北（南東から）  
2 第2調査区SE区第2面、溝450南北（北から）
- 図版22 遺跡 1 第2調査区NW区第2面、溝450東西（南から）  
2 第2調査区NW区第2面、溝450東西（南東から）
- 図版23 遺跡 1 第2調査区NW区土壤424（北から）  
2 第2調査区NE区土壤413（北から）  
3 第2調査区NE区土壤413（東から）  
4 第2調査区NW区井戸420（北から）  
5 第2調査区NW区土壤426（西から）  
6 第2調査区NW区井戸430（西から）  
7 第2調査区全景（北西から）  
8 第2調査区全景（南西から）

- 図版 24 遺物 第1調査区溝 240・第1調査区土壙 175 出土遺物
- 図版 25 遺物 第1調査区土壙 175 出土遺物
- 図版 26 遺物 第1調査区土壙 175・第1調査区溝 245・第2調査区溝 450・第2調査区土壙 426・  
第1調査区土壙 120・第1調査区土壙 230 出土遺物
- 図版 27 遺物 第1調査区土壙 155 出土遺物
- 図版 28 遺物 第1調査区土壙 155・第2調査区井戸 411 出土遺物
- 図版 29 遺物 第1調査区土壙 113・第2調査区土壙 426・第1調査区土壙 120・第1調査区溝  
245・第1調査区土壙 100・第1調査区土壙 175 出土瓦写真・実測図
- 図版 30 遺物 第1調査区土壙 113 出土鬼瓦・敷堀写真・実測図、第1調査区第2面掘下時・第1  
調査区土壙 156・第1調査区土壙 135・第1調査区土壙 200 出土錢貨写真

## 挿 図 目 次

図 1	調査地点位置図	1
図 2	調査地位置図	2
図 3	平安京条坊と調査地位置図	2
図 4	四行八門と調査位置関係図	2
図 5	調査区と条坊復元モデル	3
図 6	第1調査区第6面溝 240 実測図	4
図 7	第1調査区第5面溝 245、柱穴 282～286・374・375・388・389 実測図	5
図 8	第1調査区第5面溝 245、土壙 270 セクション実測図	5
図 9	第1調査区第5面溝 245 セクション実測図	5
図 10	第1調査区第4面柱穴 144・145・149・153・158・171・192 実測図	6
図 11	第1調査区第4面土壙 135・139 実測図	6
図 12	第1調査区第4面土壙 155 実測図	7
図 13	第1調査区第2面土壙 113 実測図	7
図 14	第1調査区第1面土壙 73・76 実測図	7
図 15	第2調査区第1面井戸 420 実測図	7
図 16	第2調査区第1面土壙 426 実測図	7
図 17	第2調査区第1面 NE 区礎石実測図	8
図 18	第1調査区溝 240 出土土器実測図	10
図 19	第1調査区土壙 175 出土土器実測図	11
図 20	第1調査区溝 245 出土土器実測図	11
図 21	第1調査区溝 450 東西出土土器実測図	12
図 22	第2調査区土壙 426 出土土器実測図	12

図 23 第 1 調査区土壤 120 出土土器実測図	12
図 24 第 1 調査区土壤 230 出土土器実測図	12
図 25 第 2 調査区土壤 413 出土土器実測図	12
図 26 第 2 調査区 SE 第 1 面出土土器実測図	12
図 27 第 1 調査区土壤 155 出土土器実測図	13
図 28 第 2 調査区井戸 411 出土土器実測図	13

## 表 目 次

表 1 遺物概要表	15
表 2 揭載遺物一覧表	17



# 平安京左京三条三坊十町 二条殿御池城跡

## I 調査の経緯

調査地は京都市中京区烏丸御池上る二条殿町 548-1 他で、平安京左京三条三坊十町に該当し、二条殿御池城跡にもあたっている。

当地に大和ハウス工業株式会社によるマンション建設の計画がなされ、工事に先立ち京都市文化財保護課が試掘調査を実施した。その結果、平安時代から江戸時代の遺構が遺存していることが判明し発掘調査の必要性が考慮されるに至った。京都市の指導の下、施主との協議の結果、当調査会が発掘調査をおこなうこととなった。

## II 調査の経過

平安時代中期には陽明門院禎子内親王（後朱雀天皇皇后）の御所であった。鎌倉時代に入り、この町には後鳥羽上皇の御所が設けられ、押小路殿、三条坊門烏丸殿、押小路烏丸泉殿、三条坊門泉殿、押小路烏丸御所、三条坊門殿といった名称で呼ばれた。この御所が完成して上皇が渡御



図 1 調査地点位置図(1/25,000)

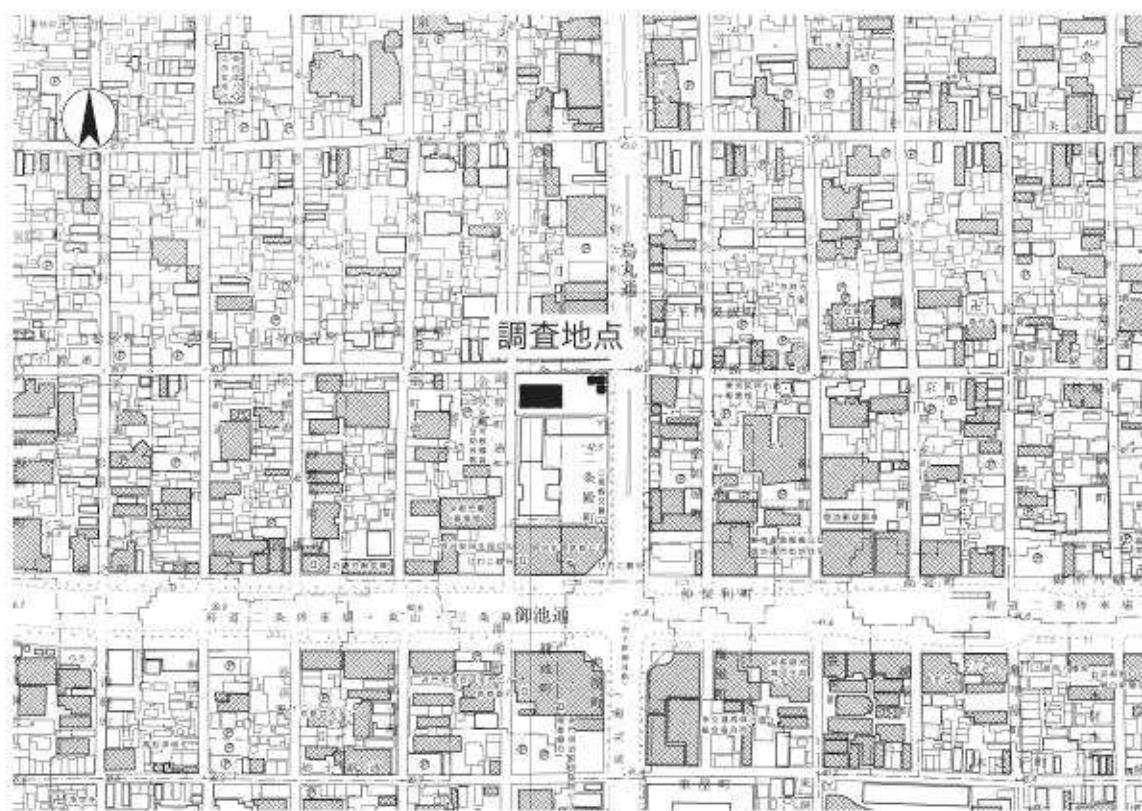


図2 調査位置図(1/5,000)

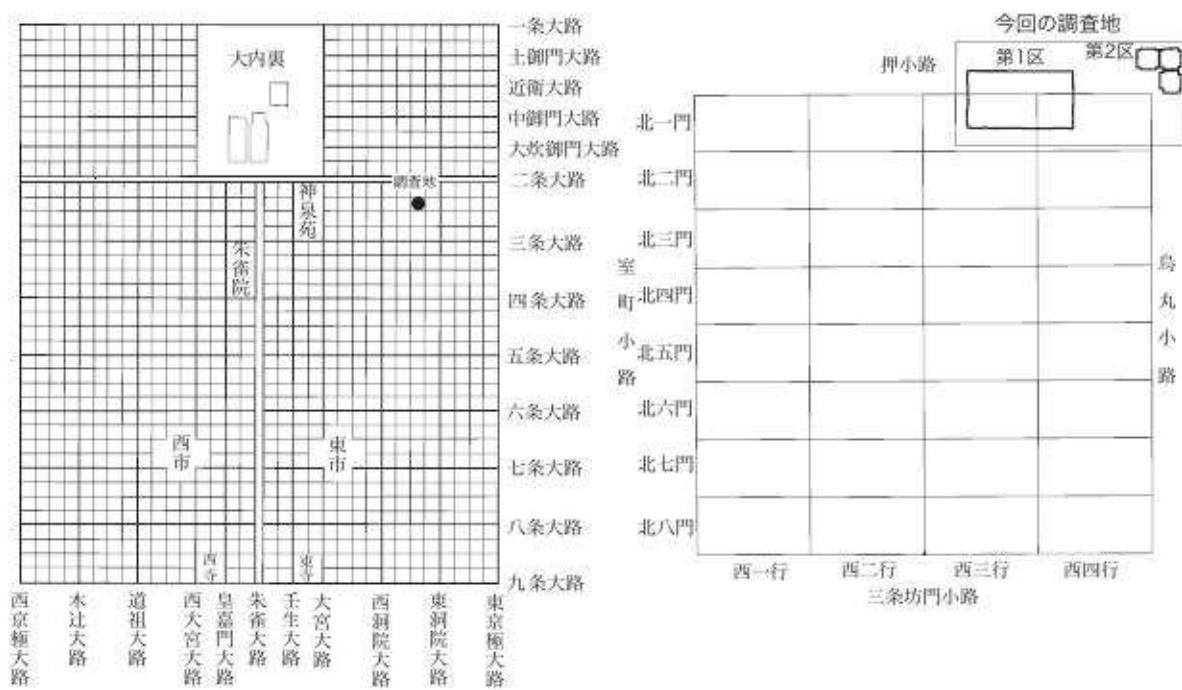


図3 平安京条坊と調査位置図

図4 四行八門と調査位置関係図(1/2,000)

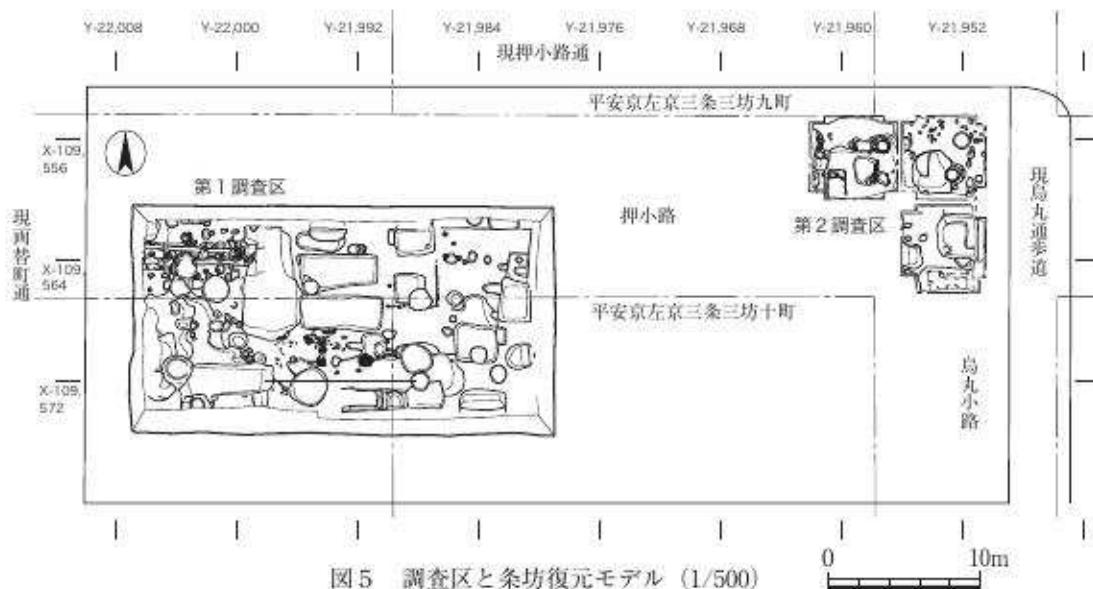
したのは、承元3(1209)年のことである<sup>註1</sup>(『玉藻』同年8月3日条)。以後二条家の邸宅となり、桃山時代となって織田信長が二条殿を営むこととなる。信長の嫡男信忠は「本能寺の変」の時にこの地で最期を遂げている。

敷地東部は既存建物地下室があるため、先に敷地西半部に東西28m、南北15m(420m<sup>2</sup>)を第1調査区として設定し、2014年12月17日から翌年3月14日までの間発掘調査を実施した。また東部について、建物解体後の12月18日に文化財保護課が試掘調査を行った。調査区北東部に堀状の堆積が確認された為、第2調査区として既存建物の基礎を残しながら85m<sup>2</sup>の調査区を設定し、2015年3月18日から調査を開始し、4月9日に終了した。

なお、調査の方法としては、(公財)京都市埋蔵文化財研究所が作成した平安京の条坊復原モデル60を使用し、平面直角座標系VIによる4mメッシュのグリッドを設定し、遺構遺物の記録をとる方法をおこなった。現場の基本実測図は20分の1で作成した。

条坊復原モデル60による平安京左京三条三坊十町の築地四隅の座標値(新測地系)はそれぞれ以下の通りである。

北西	X= - 109,566.86m Y= - 22,077.16m	北東	X= - 109,566.37m Y= - 21,957.77m
南西	X= - 109,686.25m Y= - 22,076.67m	南東	X= - 109,685.76m Y= - 21,957.28m



### III 遺構

現表土は標高 41.9 ~ 42.1m を測る。第 1 調査区の南東部をのぞき、自然堆積層は 10YR5/6 の黄褐色系の泥砂層で、上面は 40.0m 程である。

第 1 区の調査では北壁にて 69 層、西壁にて 51 層とした炭を多く含む厚さ 5cm 前後の薄い層を検出した。この層の下層には平安から中世の堆積層や遺構あり、上層では江戸時代以降の層群、遺構群が確認できる。この北壁 69、西壁 51 層は 16 世紀末期の一時期に堆積したものと考えられる。北壁の 81 層～89 層は壁沿いに検出された溝 240 の堆積土で、10 世紀末から 11 世紀初頭の遺物が出土している。

#### 平安時代中期～後期

本調査では平安時代前期にさかのほる遺構は見つかっていない。第 1 調査区の 10 世紀代の遺構としては溝 240（埋没は 11 世紀に入ってからの可能性がある）、土壙 308・398、柱穴 347・408 がある。11 世紀から 12 世紀にかけての遺構は土壙 329、12 世紀代の遺構は、井戸 328、土壙 278、柱穴 306・332 などがある。第 2 調査区では、調査区いっぱいに中世末期の堀が検出された為、それ以上に古い遺構は確認されていない。

#### 鎌倉時代

第 1 調査区で、平安時代後期から鎌倉時代前期にかけての遺構として土壙 404、柱穴 315・333 などがあり、鎌倉時代のものには土壙 201・252・290・369、柱穴 189・192・289・293 がある。

#### 室町時代

第 1 調査区の室町時代前期の遺構は土壙 180・183・190・193・195・198・200・210・211・234・235・244・253・297・

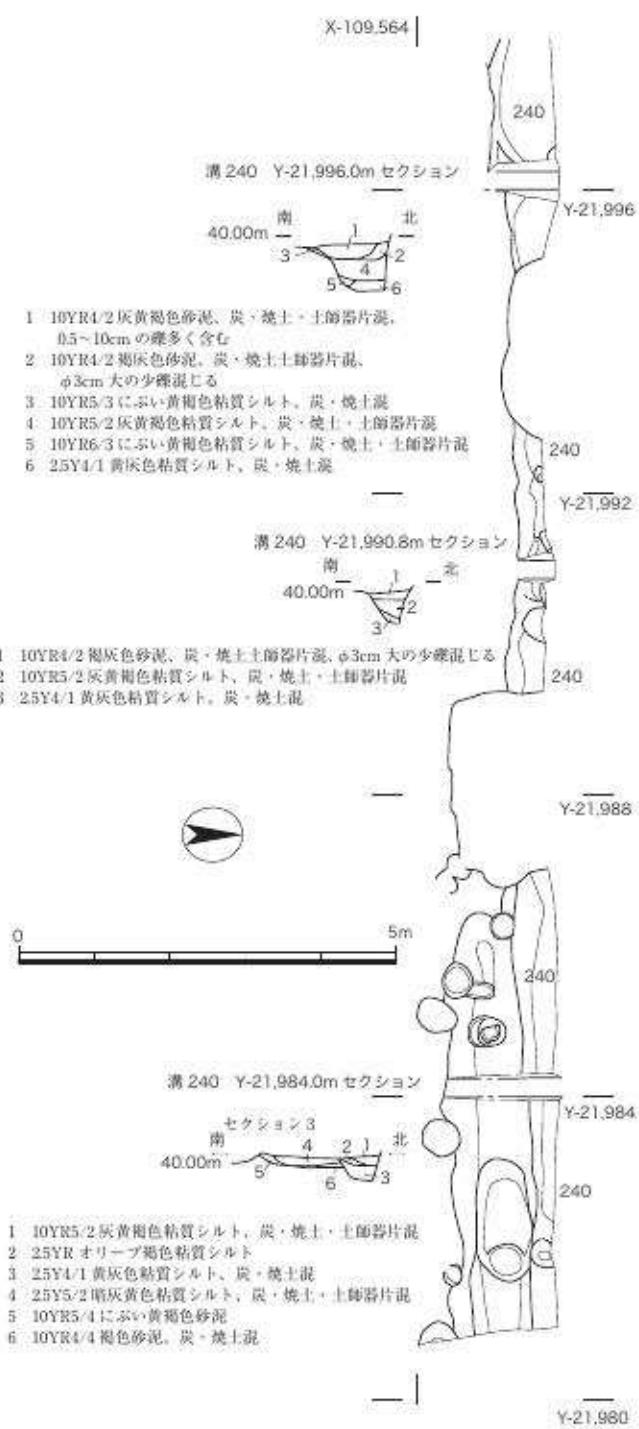


図 6 第 1 調査区第 6 面溝 240 実測図 (S=1/100)

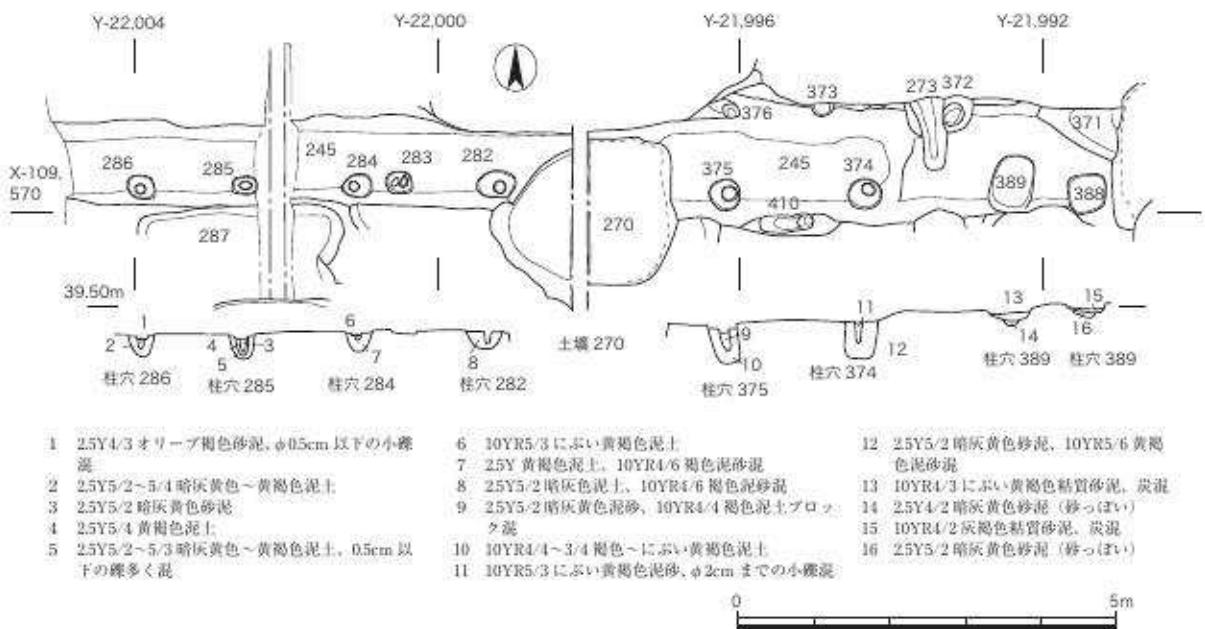


図7 第1調査区第5面溝245、柱穴282~286・374・375・388・389実測図 (S=1/100)



溝245、土壤270セクション (Y=-21.998.2m ライン)

- 10YR3/4 暗褐色砂泥, 土師器・瓦片・炭・礫  $\phi$ 5cm 少量含む
- 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥, 土師器・炭・礫  $\phi$ 0.5cm 少量含む
- 10YR4/4 褐色砂泥, 土師器片・炭・礫  $\phi$ 0.5~5cm 少量混
- 10YR4/4 にぶい黄褐色砂泥, 土師器片・炭・礫  $\phi$ 0.5~5cm 少量混
- 10YR4/2 暗黄褐色砂泥シルト混, 土師器片・炭・礫  $\phi$ 0.5~3cm 少量混
- 10YR4/4 褐色砂泥, 土師器・瓦片・炭混, 粒  $\phi$ 0.5~3cm 少量混
- 10YR3/4 暗褐色砂泥, 土師器片・瓦片多く混
- 10YR4/2 暗黄褐色砂泥, 土師器片・瓦片多く混,  $\phi$ 1.0~30cm の礫少量混
- 10YR4/2 暗黄褐色砂泥シルト混, 土師器片・瓦片多く混,  $\phi$ 1.0~30cm の礫多く含む
- 10YR6/4 にぶい黄褐色砂泥シルト混, 土師器片・炭片・ $\phi$ 0.5~3cm の礫少量混
- 10YR5/4 にぶい黄褐色砂泥や枯葉, 土師器片・瓦片多く混,  $\phi$ 3~15cm の礫多く入る
- 5Y6/2 灰灰オーリーブ粘土, 5Y4/1 灰色の粘土混
- 5Y6/2 灰灰オーリーブ粘土
- 25Y4/4 オリーブ褐色砂
- 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥, 土師器・炭片混,  $\phi$ 0.5~1.0cm の礫少含む
- 10YR6/4 にぶい黄褐色砂泥 (地山)
- 10YR5/6 黄褐色砂泥 (地山)

図8 第1調査区第5面溝245、土壤270

セクション実測図 (1/80)

溝245セクション断面図 (Y=-22,002.2m ライン)

- 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥, 土師器片少量含む
- 10YR3/3 暗褐色砂泥, 炭・土師器片微量に含む
- 10YR3/2 黒褐色砂泥, 炭・土師器片微量に含む
- 10YR5/3 にぶい黄褐色泥土
- 25Y4/2 暗灰黄色泥土, 炭・土師器片微量に混
- 10YR5/6 黄褐色泥土
- 75YR4/2 褐色砂泥, 土師器片混
- 10YR5/1 黑褐色砂泥, 炭・土師器片微量に含む
- 10YR4/2 暗黄褐色砂泥, 炭微量に混
- 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥, 炭微量に混
- 10YR4/1 褐灰褐色砂泥,  $\phi$ 1~3cm の礫含む
- 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト
- 10YR3/3 暗褐色泥土, 瓦片,  $\phi$ 1~5cm の礫含む
- 10YR4/3 にぶい黄褐色泥土, 炭・瓦片微量に含む
- 25Y4/2 暗灰黄色泥土, 灰少含む
- 10YR4/2 暗黄褐色泥土に 25Y4/2 暗灰黄色泥土混じる
- 25Y4/3 オリーブ褐色泥土, 炭微量に混
- 10YR5/4 にぶい黄褐色砂泥
- 25Y4/4 オリーブ褐色泥土
- 25Y5/2 暗灰黄色泥土

図9 第1調査区第5面溝245

セクション実測図 (1/80)

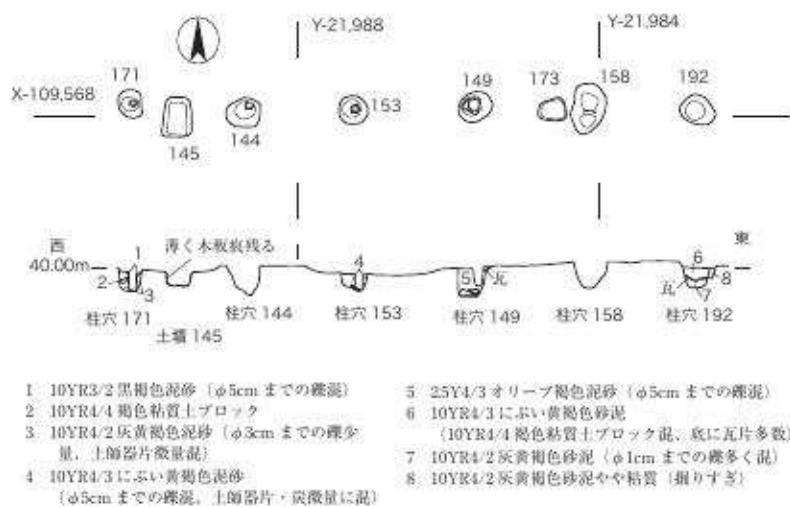


図10 第1調査区第4面柱穴 144・145・149・  
153・158・171・192 実測図 (S=1/100)

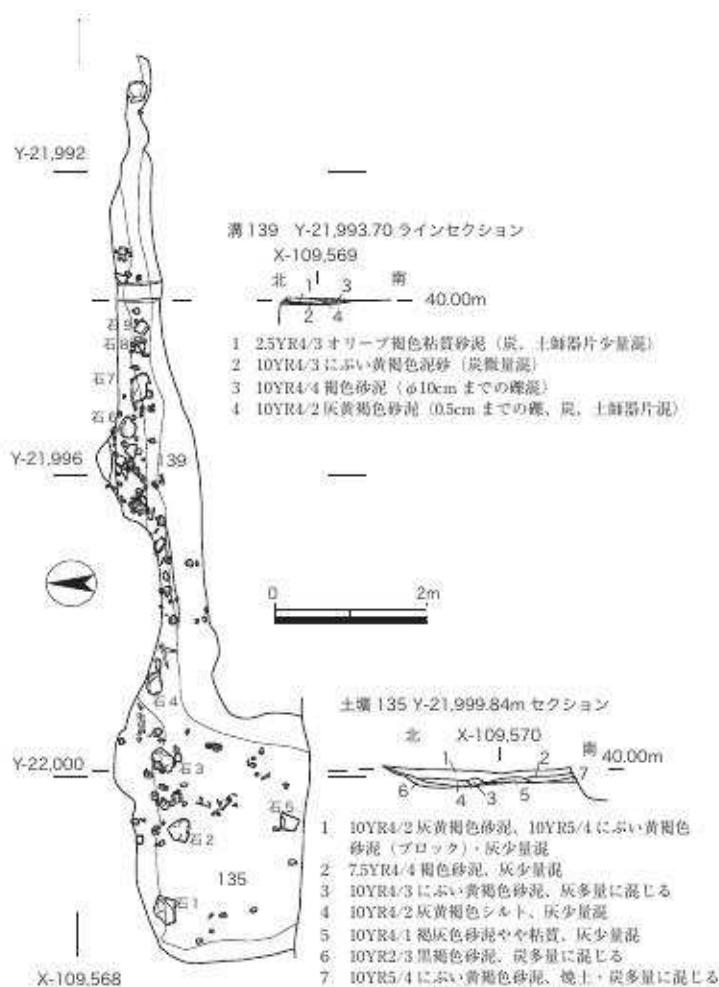


図11 第1調査区第4面土壤 135・139 実測図 (S=1/100)

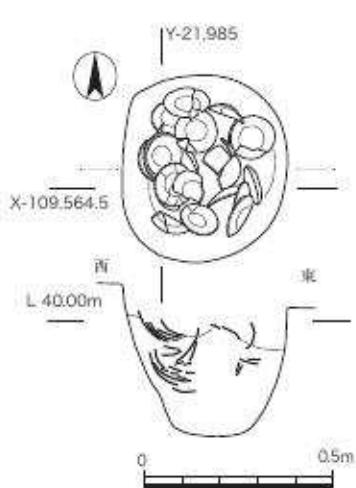


図12 第1調査区第4面  
土壤155 実測図 (S=1/20)

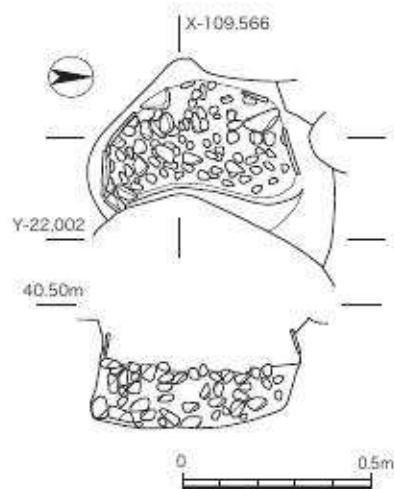


図13 第1調査区第2面  
土壤113 実測図 (S=1/20)

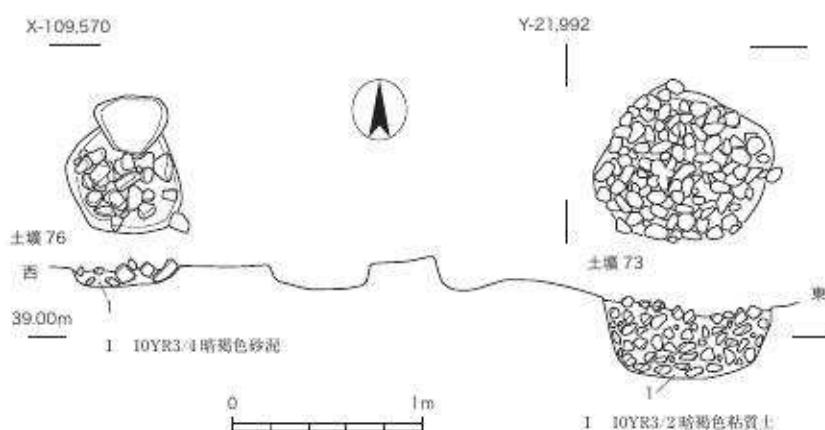


図14 第1調査区第1面土壤73・76 実測図 (S=1/40)

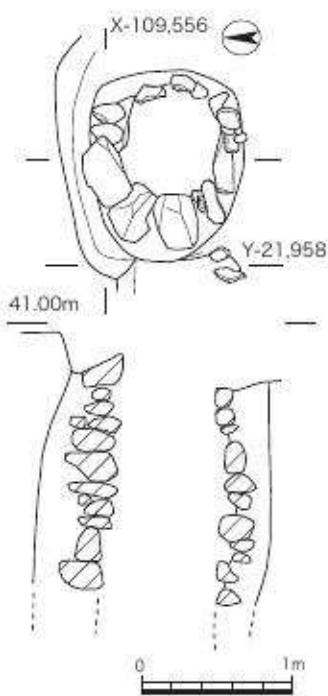


図15 第2調査区第1面  
井戸420 実測図 (S=1/50)

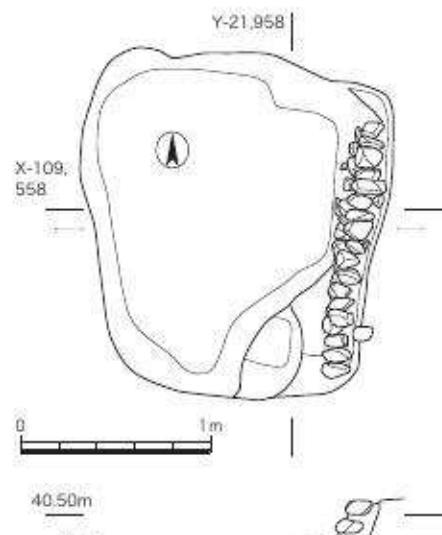


図16 第2調査区第1面土壤426  
実測図 (S=1/40)

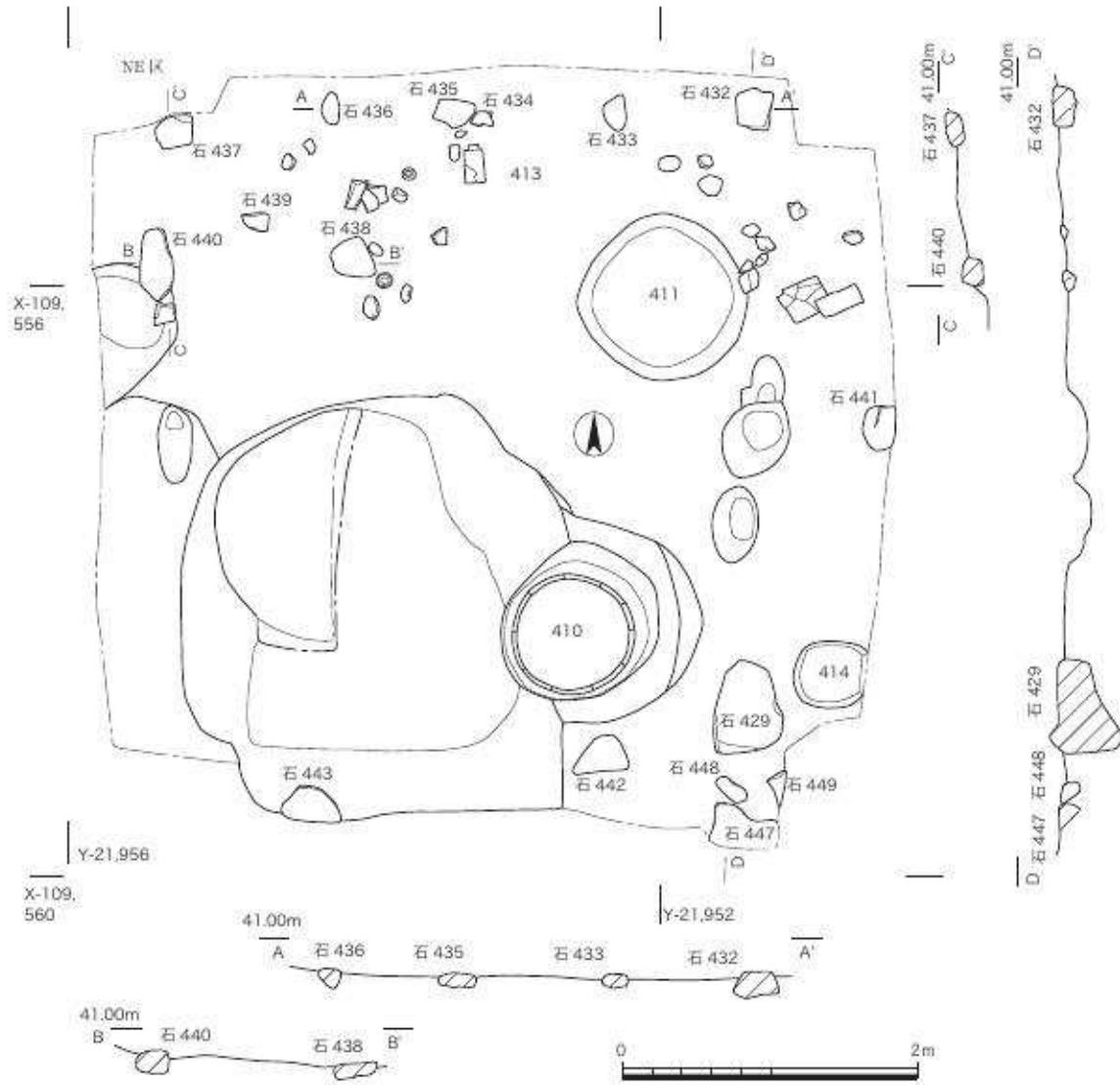


図17 第2調査区第1面NE区礎石実測図 (S=1/50)

318、柱穴 147・204・238・254・255・284・352・368・401・406がある。室町時代後期のものとして溝 245・273・350、土壙 134・140・150・154・166・167・188・209・214・222・223・232・249・267・275・280・343・344・360・377・378、柱穴 149・160・197・206・359・388・390・392などがある。

#### 桃山時代～江戸時代前期の遺構

第1調査区の桃山時代～江戸時代前期の遺構は土壙 14・15・16・36・93・95・100・111・112・146・148・156・157・170・266・270・353・371、溝 18・135・139・230、柱穴 115・119・120・282・354・389、井戸 182 等があり、第2調査区では溝 450 東西と、溝 450 南北が検出されている。

#### 第1調査区土壙 135・139 (図版4・14-2・17-6、図11)

調査区中央部から西側にかけて検出した遺構で、堆積土には炭や焼土などが多く入る。これの東側

に広がる礫敷きと関連があるものと思われ溝の機能を果たしていたものと思われる。遺物は土師器皿や桃山時代の陶磁器、瓦類などとともに獸（鹿）骨も出土している。<sup>註3</sup>

#### 第2調査区溝450東西・南北(図版10・20～22)

第2調査区で検出した溝450東西と、同南北は、当初同一のものと見ていたが、底場のレベルや堆積状況に違いが見られ、東西方向の溝が先に埋まっているものと見ている。

#### 江戸時代

江戸時代前期の遺構として第1調査区では土壙7・72・99・138・145・155、柱穴45・98・104・106、溝23、井戸26があり、第2調査区では土壙413、426、井戸420・451がある。江戸時代後期の遺構として第1調査区では、土壙17・23・31・33、井戸27・30・32があり、第2調査区では土壙421、井戸410、411がある。

## IV 遺 物

出土遺物は整理箱にして 146 箱ある。なお、時代区分は平安京の土器編年をもとにおこなう。<sup>註2</sup>

### 土器・陶磁器類

#### 第1調査区溝 240 出土土器 (図版 24、図 18)

土師器皿 A (1 ~ 13)、同 N (14 ~ 17)、黑色土器 B 梗 (18)、綠釉陶器梗 (19 · 20)、白色土器皿 (21 · 22)、同三足皿 (23)、灰釉陶器梗 (24 ~ 27) が出土した。平安京Ⅲ期新の特徴もあるが少し新しい要素も認められるため 10 世紀末から 11 世紀初頭にかかるくらいの一群と考えている。

#### 第1調査区土壤 175 出土土器 (図版 24 ~ 26、図 19)

土師器皿 N 小型 (28 ~ 37)、同皿 N 大 (38 ~ 43)、同皿 Sh (44 ~ 50)、同皿 S (51 ~ 55)、瓦器鍋 (56 · 57)、須恵器鉢 (58)、輸入磁器白磁皿 (59) が出土している。京都Ⅶ期新～Ⅷ期古くらに比定でき、14 世紀中頃の土器群と見ている。

#### 第1調査区溝 245 出土土器 (図版 26、図 20)

土師器皿 Nr (60)、同皿 Sb (61 ~ 64)、同皿 S (65 ~ 84) が出土している。平安京Ⅺ期古的な要素が強く 16 世紀末を中心とする時期と考えている。

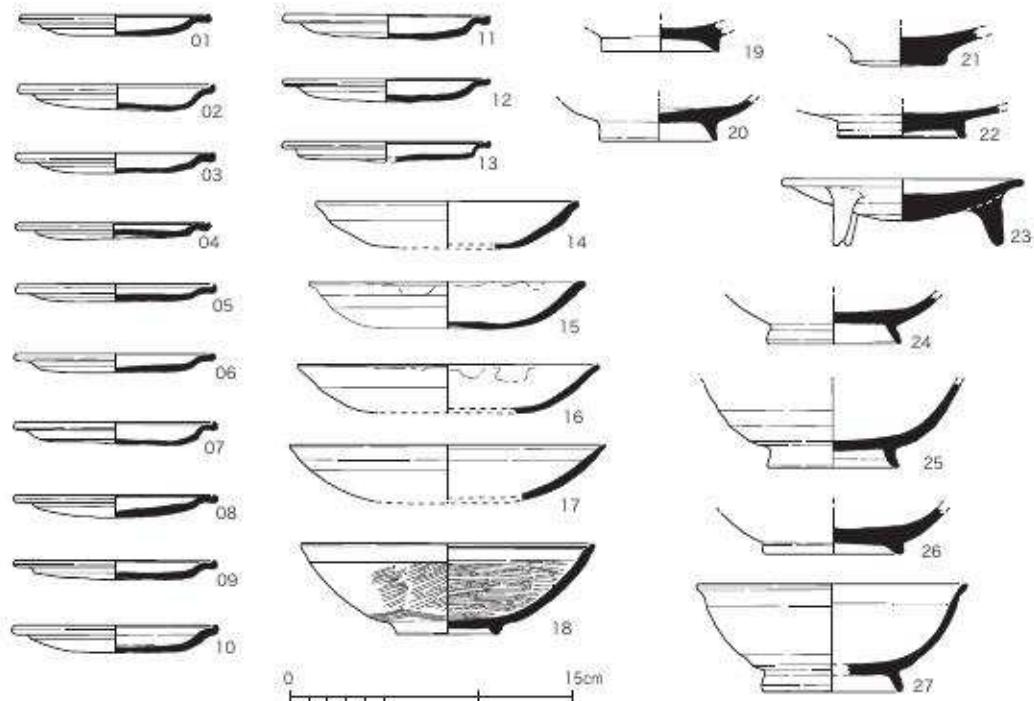


図18 第1調査区溝240出土土器実測(1/4)

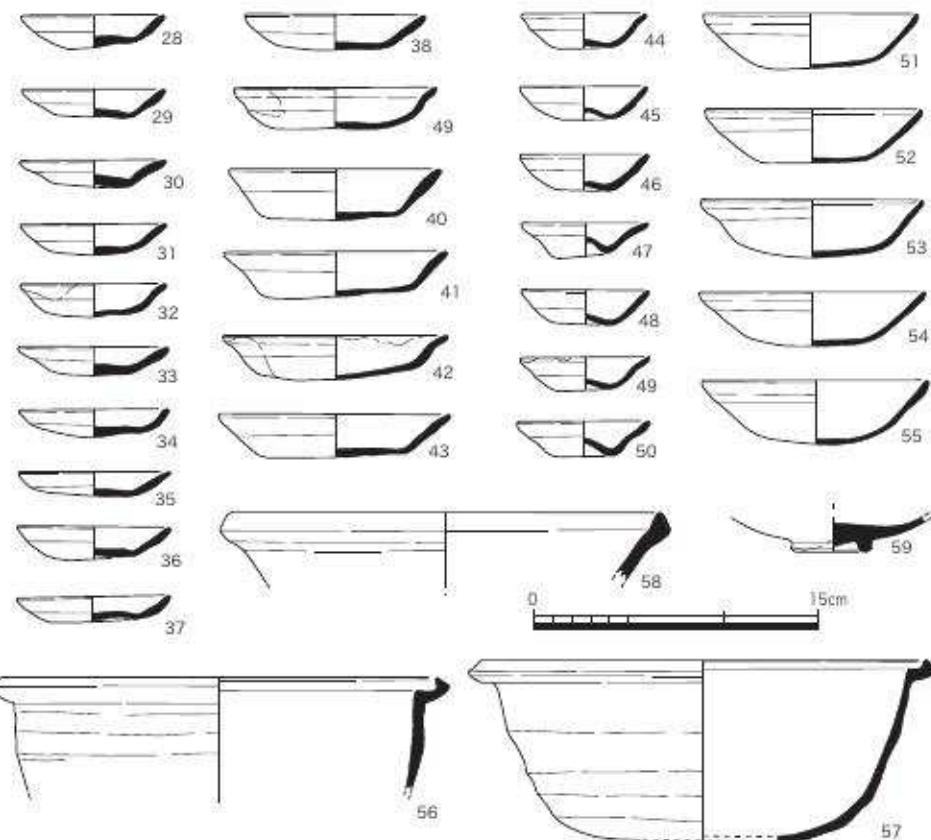


図19 第1調査区土壙175出土土器実測図(1/4)

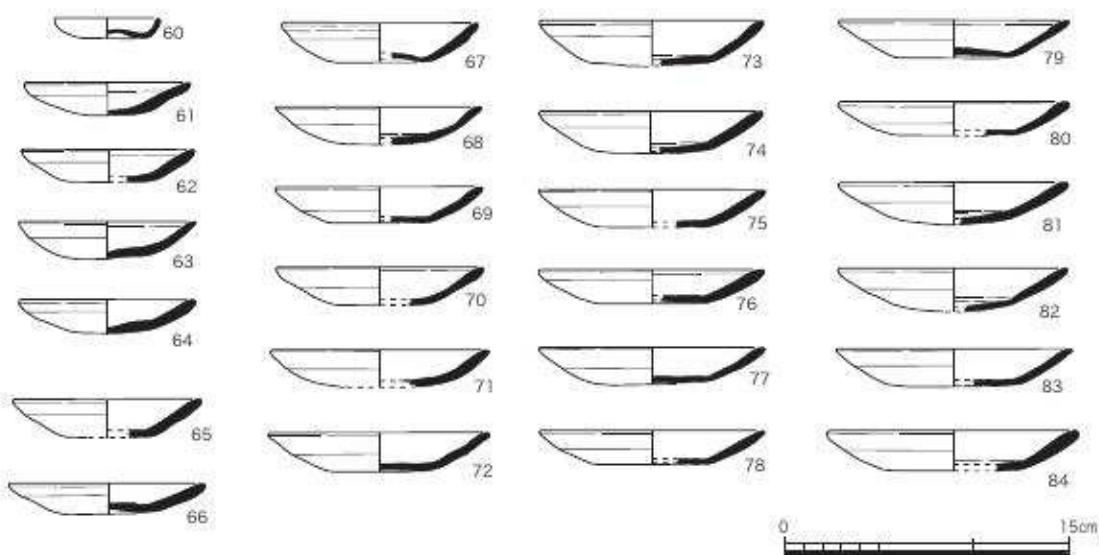


図20 第1調査区溝245出土土器実測図(1/4)

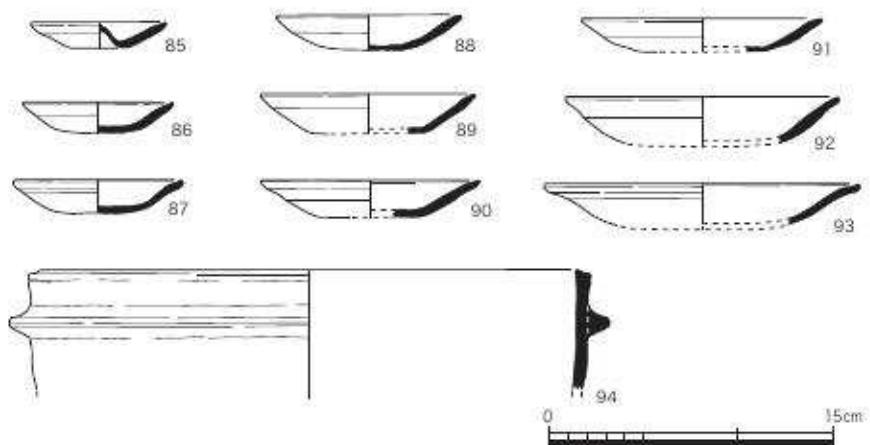


図21 第2調査区溝450東西出土土器実測図(1/4)

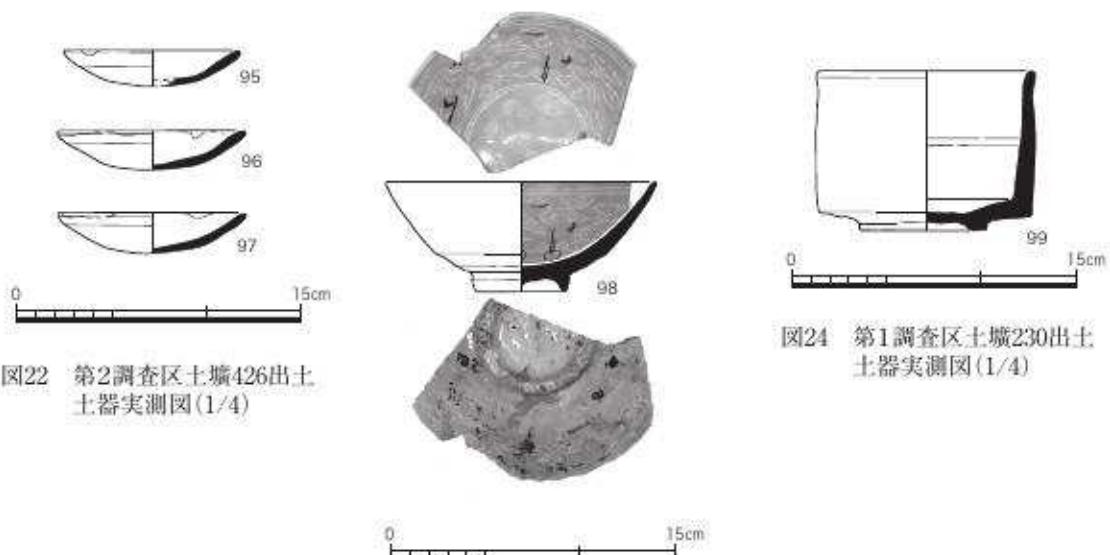


図22 第2調査区土壌426出土  
土器実測図(1/4)

図24 第1調査区土壌230出土  
土器実測図(1/4)

図23 第1調査区土壌120出土  
土器実測図(1/4)

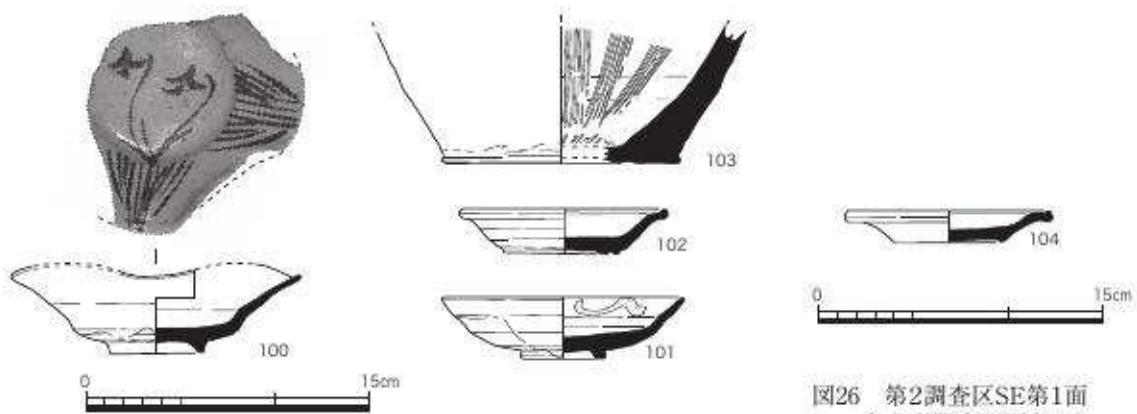


図25 第2調査区土壌413出土土器実測図(1/4)

図26 第2調査区SE第1面  
出土土器実測図(1/4)

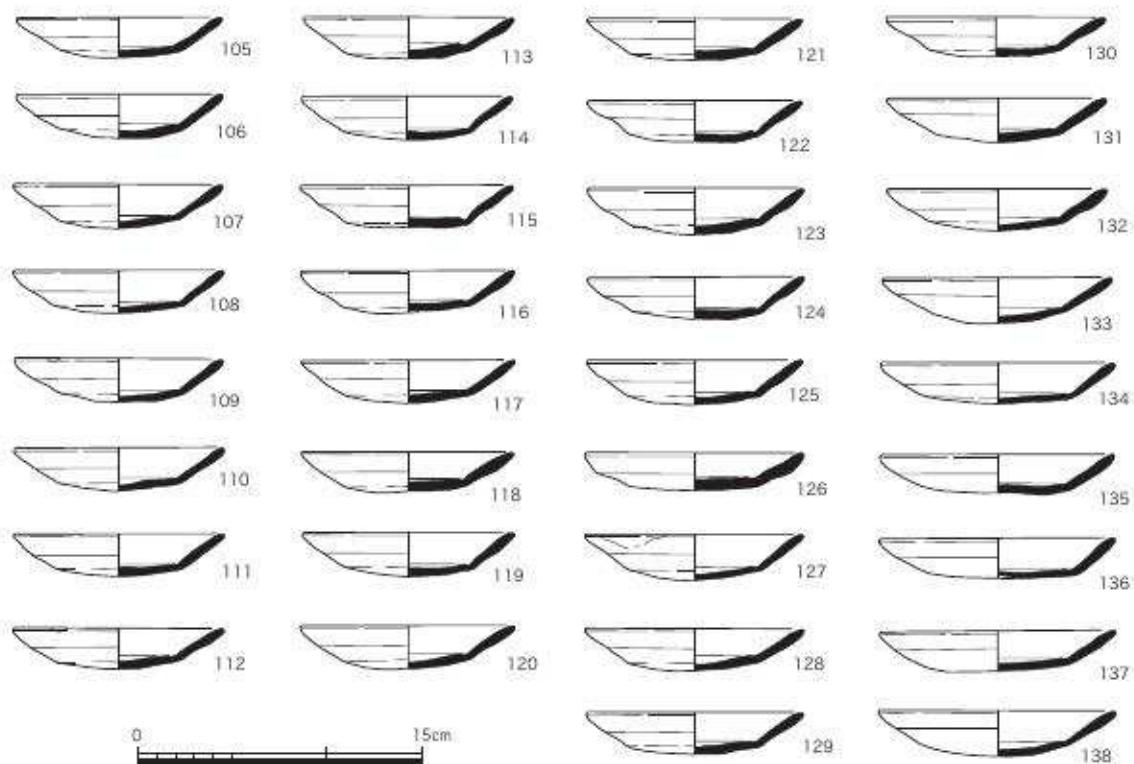


図27 第1調査区土壤155出土土器実測図(1/4)

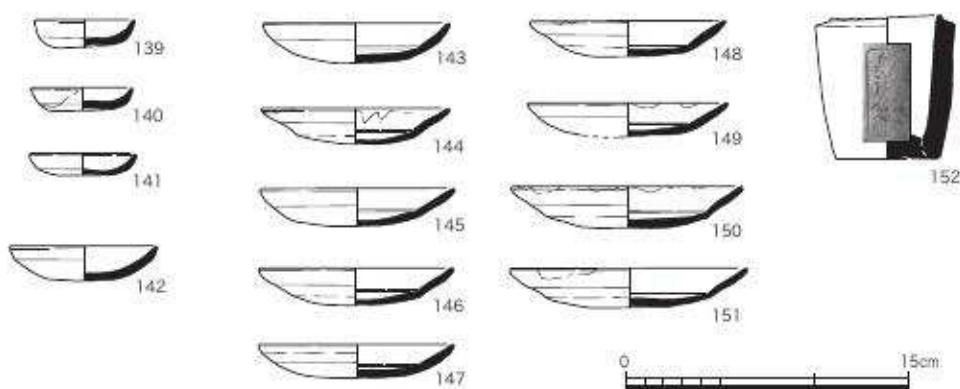


図28 第2調査区井戸411出土土器実測図(1/4)

## **第2調査区溝 450 東西出土土器** (図版 26、図 21)

土師器皿 Sh (85)、同皿 Sb (86・87)、瓦器羽釜 (98) が出土。平安京 X 期新くらいに比定できる土器群と見ている。

## **第2調査区土壤 426 出土土器** (図版 26、図 22)

土師器皿 Sb (95～97) が出土。平安京 XI 期に比定できる土器群と思われる。溝 450 東西が埋められた直後に成立する遺構から出土した土器群である。

## **第1調査区土壤 120 出土土器** (図版 26、図 23)

高麗青磁椀 (98) が出土。線刻の象眼で、白と黒の土を埋め込んで雲鶴文を描く。桃山時代の朝鮮半島からの輸入品と見ている。

## **第1調査区土壤 230 出土土器** (図版 26、図 24)

国産施釉陶器椀、いわゆる瀬戸黒茶椀 (99) である。小振りのもので、全内面から外面高台脇まで施釉、高台は削り出す。

## **第2調査区土壤 413 出土土器** (図 25)

絵唐津向付 (100)、絵唐津皿 (101)、瀬戸折縁皿 (102)、焼締陶器備前播鉢 (103) が出土。桃山時代に位置づけられる土器である。

## **第2調査区 SE 区第1面出土土器** (図 26)

瀬戸折縁皿 (104) が出土している。

## **第1調査区土壤 155 出土土器** (図版 27・28、図 27)

土師器皿 S (105～138) が出土。平安京 XI 期新～XII 古くらいの特徴が有り、17 世紀半ば～後半の一群と見ている。口縁部等に煤が付着している個体が多い。

## **第2調査区井戸 411 出土土器** (図版 28、図 28)

土師器皿 Nr (139～141)、同皿 Sb (142)、同皿 S (143～151)、土製品塙壺身 (152)、等が出土している。塙壺身には「泉湊伊織」のスタンプがある。平安京 XII 期の一群で、18 世紀後半のものと見ている。

## **瓦類** (図版 29～30)

### **桐文軒丸瓦** (153)

第1調査区土壤 113 出土。

### **巴文軒丸瓦** (154～158)

154 は第1調査区土壤 113、155 は第2調査区土壤 426、156 は第1調査区土壤 120、157・158 は第1調査区溝 245 出土。

### **唐草文軒平瓦** (159～163)

159・161・163 は第1調査区溝 245、160 は第1調査区土壤 120 出土。

### 唐草文軒平瓦（164）

第1調査区土壌175出土。14世紀代のものか。

### 鬼瓦（165）

顔の向かって左側部分の一部が残存する。周囲に珠子がめぐる。第1調査区土壌113出土。

### 敷壇（166～167）

いずれも第1調査区土壌113出土。166・168は方形に復元できるが、167は多角形で特殊な部位に使うものと思われる。166は小孔を穿つ。

### 金属製品（図版30）

#### 銭貨（169～174）

169～171は「元祐通宝」、172は「岐和通宝」、173は「宋元通宝」、174は「嘉祐通宝」である。169は第2面掘下げ、170、172・173は土壌156、171は土壌135、174は土壌200出土。いずれも第1調査区。

表1 遺物概要表

時代	内容	コンテナ数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
平安時代	土師器、緑釉、黒色土器 灰釉陶器、白色土器		土師器17点、緑釉陶器2点、灰釉陶器4点、黒色土器1点、白色土器3点、		
鎌倉時代～室町時代	土師器、瓦器、須恵器、 輸入磁器 銭貨		土師器62点、瓦器3点、須恵器1点、 輸入白磁皿1点 銭貨6点		
桃山時代～江戸時代前期	土師器、国産陶磁器、焼 締陶器、瓦		土師器37点、国産陶磁器6点、輸入 陶器1点、瓦類16点		
江戸時代前期以降	土師器、土製品		土師器13点、土製品1点		
合計		153箱	174点(7箱)	146箱	0箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より7箱多くなっている。

## V 小 結

調査地点は現烏丸通と押小路通の交差点の南西側にある。平安京左京三条三坊十町の北東部分に該当する。北側三分の一は平安京の押小路にもかかっている。今回の調査では押小路と明瞭に推定できる施設は発見されなかった。第1調査区の北壁沿いに側溝かもしれない溝が見つかったが、調査区西側までは延びておらず途切れる状況で、条坊復元モデルとも位置的には重ならない。

ここから西へ行くと、東三条殿、閑院、堀川院と押小路を連る二町規模の邸宅が有り、さらに西には神泉苑、大学寮、穀倉院などと四町を占有する大型施設が続き、東西に往来する機能を果たしえない道路であったことがわかる。

押小路について言えば、今回の調査ではほとんどその痕跡が認められず、此の当りでは施工されていなかったと見ることもできる。<sup>註4</sup>

時代が下ると織田信長によって二条殿が営まれた。「本能寺の変」(天正 10、1582 年) の際に<sup>註5</sup>は嫡男である信忠が此の地において最期を遂げている。一帯は被災し施設は灰燼に帰したようである。第1調査区の北壁第 69 層・西壁 51 層はその時の被災の痕跡である可能性が高い。また第2調査区で検出した東西方向の堀は南北に比べやや古く、「天文法華の乱」(天文元、1532 年)<sup>註6</sup>に関係する可能性も考えられ、南北方向の堀はそれより大きく、深く造られていることから信長の二条殿の堀である可能性が高い。

『都名所図会』によると浄土宗の僧貞安が、二条烏丸で信長父子の菩提を弔い、信忠の法名をとって「大雲院」と号した。しかし秀吉の都市改造によって四条京極の南へ移転し、さらに 1972 年に現在の東山に移転する。調査区北西部で比較的大きな柱穴や、鬼瓦、敷き博などが見つかっておりこの大雲院に関連する遺構・遺物であるとも推定できる。

註1 『平安京提要』総監修角田文斯 角川書店 1984 年

註2 小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年」「研究紀要第 3 号」(財) 京都市埋蔵文化財研究所 1996 年。土師器の型式名称もこれに従った。

註3 京都造形大学芸術学部歴史遺産学科教授・岡田文男氏より、実見の上御教示をいただいた。

註4 碓井小三郎「京都坊目誌」「京都叢書」京都叢書刊行会 1914 ~ 17 年。京都坊目誌には押小路について「東は寺町に起こり西は堀川に至る。延暦中開通する所にして文明以来荒廃。天正中、再開せしが、烏丸以西は通ぜず。宝永五年三月大火後、油の小路までをひらく。當時、新道と称す。油の小路堀川間は明治 8 年 11 月通す」とある。

註5 江村専斎の「老人雜話 乾之巻」には「二条院の小池の御所は、今の室町の小池の町也。御所は応仁の乱の比(ころ)焼失し、老人幼少の時には、小池の跡遺(のこ)れり。小池より泉湧出て四条へながれ、今月鉾の町より西へ流る。小池の邊には庭の石など残り、大松に藤などまつへる有。二条殿は傍らに小さき屋を造りて御座す。二条の御所に十境の名あるも、此小池の御所也。信長の時に二条殿をば報恩寺(今の近衛殿屋舗歟)を易(か)へ地にして移し、小池の御所を取り立て、屋形を結構し、小池に反橋などをかけ、烏丸通に東の壁をかけ、室町の東側の町家はありて、町屋の後に長壁をかけたり。門は南面也。」と描写されている。「老人雜話」「雜史集」続国民文庫 国民文庫刊行会 1912 年

註6 吉原健一郎「都名所図会」「国史大辞典 15」吉川弘文館 1996 年

表2 掘出遺物一覧表

口径・高さの単位はcm

番号	種類	器形	口径	高さ	色調、性	出土遺構	実測番号
1	土鍋器	III A	10.2	1.1	10YR8/3 淡黄褐色	第1調査区溝 240	110
2	土鍋器	III A	10.4	1.3	10YR8/2 灰白色	第1調査区溝 240	101
3	土鍋器	III A	10.4	1.3	10YR8/2 灰白色	第1調査区溝 240	102
4	土鍋器	III A	10.4	0.9	10YR8/2 灰白色	第1調査区溝 240	109
5	土鍋器	III A	10.6	0.9	2.5Y7/2 灰黄色	第1調査区溝 240	104
6	土鍋器	III A	10.6	1.0	2.5Y7/2 灰黄色	第1調査区溝 240	105
7	土鍋器	III A	10.8	1.2	10YR8/2 灰白色	第1調査区溝 240	100
8	土鍋器	III A	10.8	1.3	2.5Y7/2 灰黄色	第1調査区溝 240	106
9	土鍋器	III A	10.8	1.0	5YR7/6 橙色	第1調査区溝 240	107
10	土鍋器	III A	10.9	1.5	10YR8/2 灰白色	第1調査区溝 240	99
11	土鍋器	III A	10.9	1.4	10YR8/3 淡黄褐色	第1調査区溝 240	103
12	土鍋器	III A	11.0	1.2	10YR8/2 灰白色	第1調査区溝 240	108
13	土鍋器	III A	11.1	1.1	10YR8/3 淡黄褐色	第1調査区溝 240	111
14	土鍋器	III N	14.0	2.5	2.5Y7/2 灰黄色	第1調査区溝 240	115
15	土鍋器	III N	14.6	2.5	10YR8/3 淡黄褐色	第1調査区溝 240	113
16	土鍋器	III N	16.0	2.6	10YR8/2 灰白色。口縁内外被熱痕	第1調査区溝 240	114
17	土鍋器	III N	16.7	2.9	2.5Y8/3 淡黄色	第1調査区溝 240	112
18	黑色土器	B. 菊	15.6	1.8	5Y2/1 黒色、内外面ミガキ	第1調査区溝 240	116
19	綠釉陶器	輪	—	1.5	輪: 10YR8/6 黄褐色、輪: 10YR4/2 オリーブ灰色	第1調査区溝 240	117
20	綠釉陶器	輪	—	2.1	輪: 10YR8/3 淡黄褐色、輪: 10YR4/2 オリーブ灰色	第1調査区溝 240	118
21	白色土器	肚	—	2.0	10YR8/2 灰白色	第1調査区溝 240	123
22	白色土器	輪	—	1.8	10YR8/2 灰白色	第1調査区溝 240	124
23	白色土器	三足輪	12.8	3.5	10YR8/2 灰白色	第1調査区溝 240	125
24	灰釉陶器	輪	—	2.6	5Y7/1 灰白色	第1調査区溝 240	119
25	灰釉陶器	輪	—	4.5	N8/ 灰白色	第1調査区溝 240	120
26	灰釉陶器	輪	—	2.5	N8/ 灰白色	第1調査区溝 240	121
27	灰釉陶器	輪	14.4	5.7	2.5Y7/1 灰白色	第1調査区溝 240	122
28	土鍋器	III N 小	7.6	1.7	7.5YR7/4 にぶい橙色、内外面被熱痕	第1調査区土竈 175	35
29	土鍋器	III N 小	7.6	1.5	7.5YR7/4 にぶい橙色、内外面被熱痕	第1調査区土竈 175	38
30	土鍋器	III N 小	7.8	1.4	7.5YR7/4 にぶい橙色、内外面被熱痕	第1調査区土竈 175	37
31	土鍋器	III N 小	7.8	1.6	10YR7/3 にぶい黄褐色。内外面被熱痕	第1調査区土竈 175	39
32	土鍋器	III N 小	7.8	1.8	7.5YR7/4 にぶい橙色、内外面被熱痕	第1調査区土竈 175	42
33	土鍋器	III N 小	8.0	1.5	10YR7/3 にぶい黄褐色。内外面被熱痕	第1調査区土竈 175	36
34	土鍋器	III N 小	8.0	1.5	10YR7/2 にぶい橙色。内外面被熱痕	第1調査区土竈 175	41
35	土鍋器	III N 小	8.1	1.3	7.5YR7/4 にぶい橙色、内外面被熱痕	第1調査区土竈 175	40
36	土鍋器	III N 小	8.1	1.3	7.5YR7/4 にぶい橙色、内外面被熱痕	第1調査区土竈 175	43
37	土鍋器	III N 小	8.2	1.3	10YR8/2 灰白色	第1調査区土竈 175	54
38	土鍋器	III N 大	9.6	1.9	10YR8/1 ~ 8/2 灰白色。内外面被熱痕	第1調査区土竈 175	48
39	土鍋器	III N 大	10.8	2.2	7.5YR6/4 にぶい橙色、内外面被熱痕	第1調査区土竈 175	44
40	土鍋器	III N 大	11.3	2.7	7.5YR7/3 にぶい橙色、内外面被熱痕	第1調査区土竈 175	45
41	土鍋器	III N 大	11.8	2.4	7.5YR7/4 にぶい橙色、内外面被熱痕	第1調査区土竈 175	47
42	土鍋器	III N 大	11.9	2.4	10YR8/2 灰白色。内外面被熱痕	第1調査区土竈 175	49
43	土鍋器	III N 大	12.3	2.3	10YR7/3 にぶい黄褐色。内外面被熱痕	第1調査区土竈 175	46
44	土鍋器	III Sh	6.7	1.8	10YR8/1 灰白色。内外面被熱痕	第1調査区土竈 175	50
45	土鍋器	III Sh	6.8	1.8	10YR8/2 灰白色	第1調査区土竈 175	51
46	土鍋器	III Sh	6.8	1.9	10YR8/2 灰白色	第1調査区土竈 175	52
47	土鍋器	III Sh	6.8	1.8	10YR8/2 灰白色	第1調査区土竈 175	53
48	土鍋器	III Sh	6.8	1.9	10YR8/1 灰白色。内外面被熱痕	第1調査区土竈 175	57
49	土鍋器	III Sh	6.9	1.7	10YR8/2 灰白色。内外面被熱痕	第1調査区土竈 175	56
50	土鍋器	III Sh	7.1	1.9	10YR8/1 灰白色	第1調査区土竈 175	55
51	土鍋器	III S	11.4	2.9	10YR8/2 灰白色。内外面被熱痕	第1調査区土竈 175	62
52	土鍋器	III S	11.5	2.9	10YR8/2 灰白色	第1調査区土竈 175	59
53	土鍋器	III S	11.8	3.1	10YR8/1 灰白色	第1調査区土竈 175	61
54	土鍋器	III S	12.0	2.9	10YR8/2 灰白色	第1調査区土竈 175	58
55	土鍋器	III S	12.0	3.4	10YR8/1 灰白色	第1調査区土竈 175	60
56	瓦器	輪	24.3	6.0	N5/ ~ 4/ 灰色、外面被熱痕	第1調査区土竈 175	65
57	瓦器	輪	24.8	9.6	2.5Y7/1 灰白色	第1調査区土竈 175	66
58	須恵器	鉢	23.8	3.7	N4/ 灰色、種植物	第1調査区土竈 175	64
59	白磁	皿	—	0.9	N8/ 灰白色	第1調査区土竈 175	63
60	土鍋器	III Nr	5.6	1.1	10YR7/3 にぶい黄褐色	第1調査区溝 245	126
61	土鍋器	III Sb	8.8	1.7	10YR8/4 浅黄褐色	第1調査区溝 245	130
62	土鍋器	III Sb	9.2	1.7	10YR8/2 灰白色	第1調査区溝 245	128
63	土鍋器	III Sb	9.4	2.0	7.5YR7/6 橙色、内面に鉢分付着	第1調査区溝 245	127
64	土鍋器	III Sb	9.4	1.8	10YR8/3 浅黄褐色	第1調査区溝 245	129
65	土鍋器	III S	10.0	2.0	10YR8/2 灰白色	第1調査区溝 245	147
66	土鍋器	III S	10.4	1.7	7.5YR8/4 浅黄褐色	第1調査区溝 245	131
67	土鍋器	III S	10.4	2.1	7.5YR7/6 橙色	第1調査区溝 245	136
68	土鍋器	III S	10.9	2.0	10YR7/4 にぶい黄褐色	第1調査区溝 245	149
69	土鍋器	III S	11.0	1.9	7.5YR7/4 にぶい橙色	第1調査区溝 245	143
70	土鍋器	III S	11.0	2.0	10YR7/4 にぶい黄褐色	第1調査区溝 245	148
71	土鍋器	III S	11.6	2.0	10YR7/4 にぶい黄褐色	第1調査区溝 245	133



番号	種類	器形	口径	器高	色調、様	出土遺構	実測番号
148	土師器	皿 S	10.4	1.9	10YR8/2 灰白色、口縁被燒痕	第2調査区井戸411	79
149	土師器	皿 S	10.6	1.8	10YR7/3 に赤い黄橙色、口縁内外部焼付着	第2調査区井戸411	76
150	土師器	皿 S	12.3	2.2	7.5YR7/4 に赤い橙色、口縁内外部焼付着	第2調査区井戸411	73
151	土師器	皿 S	12.6	2.1	7.5YR7/4 に赤い橙色、口縁内外部焼付着	第2調査区井戸411	74
152	土製品	壺蓋身	5.9	7.5	7.5YR6/4 に赤い橙色、「辰漆伊羅」の印	第2調査区井戸411	80
153	軒丸瓦				5Y5/1 灰色	第1調査区土塙113	153
154	軒丸瓦				5Y4/1 ~ 同 6/1 灰色	第1調査区土塙113	154
155	軒丸瓦				10YR5/1 黒灰色、10YR7/2 に赤い黄橙色	第2調査区土塙426	158
156	軒丸瓦				7.5YR7/6 橙色 ~ 10YR7/4 に赤い黄橙色	第1調査区柱穴120	155
157	軒丸瓦				2.5Y4/1 黄灰色	第1調査区溝245	157
158	軒丸瓦				2.5Y4/1 黄灰色	第1調査区溝245	156
159	軒平瓦				N3/ 暗灰色	第1調査区溝245	162
160	軒平瓦				7.5Y6/1 灰色	第1調査区柱穴120	161
161	軒平瓦				N7/ ~ 6/ 灰白 ~ 灰色	第1調査区溝245	163
162	軒平瓦				5Y4/1 灰色	第1調査区柱穴120	160
163	軒平瓦				2.5Y7/1 灰白色、5Y3/1 オリーブ黒色	第1調査区土塙100	159
164	軒平瓦				N4/ 灰色	第1調査区土塙175	164
165	鬼瓦				N3/ 暗灰色	第1調査区土塙113	165
166	敷壇				5Y3/1 オリーブ黒色	第1調査区土塙113	167
167	敷壇				N7/ 灰白 ~ N5/ 灰色	第1調査区土塙113	168
168	敷壇				N5/ 灰色 ~ N7/ 灰白色	第1調査区土塙113	166
169	銭貨				元祐通宝	第1調査区第2面掘下	
170	銭貨				元祐通宝	第1調査区土塙156	
171	銭貨				元祐通宝	第1調査区土塙135	
172	銭貨				政和通宝	第1調査区土塙156	
173	銭貨				宋元祐通宝	第1調査区土塙156	
174	銭貨				嘉祐元宝	第1調査区土塙200	

## 報告書抄録

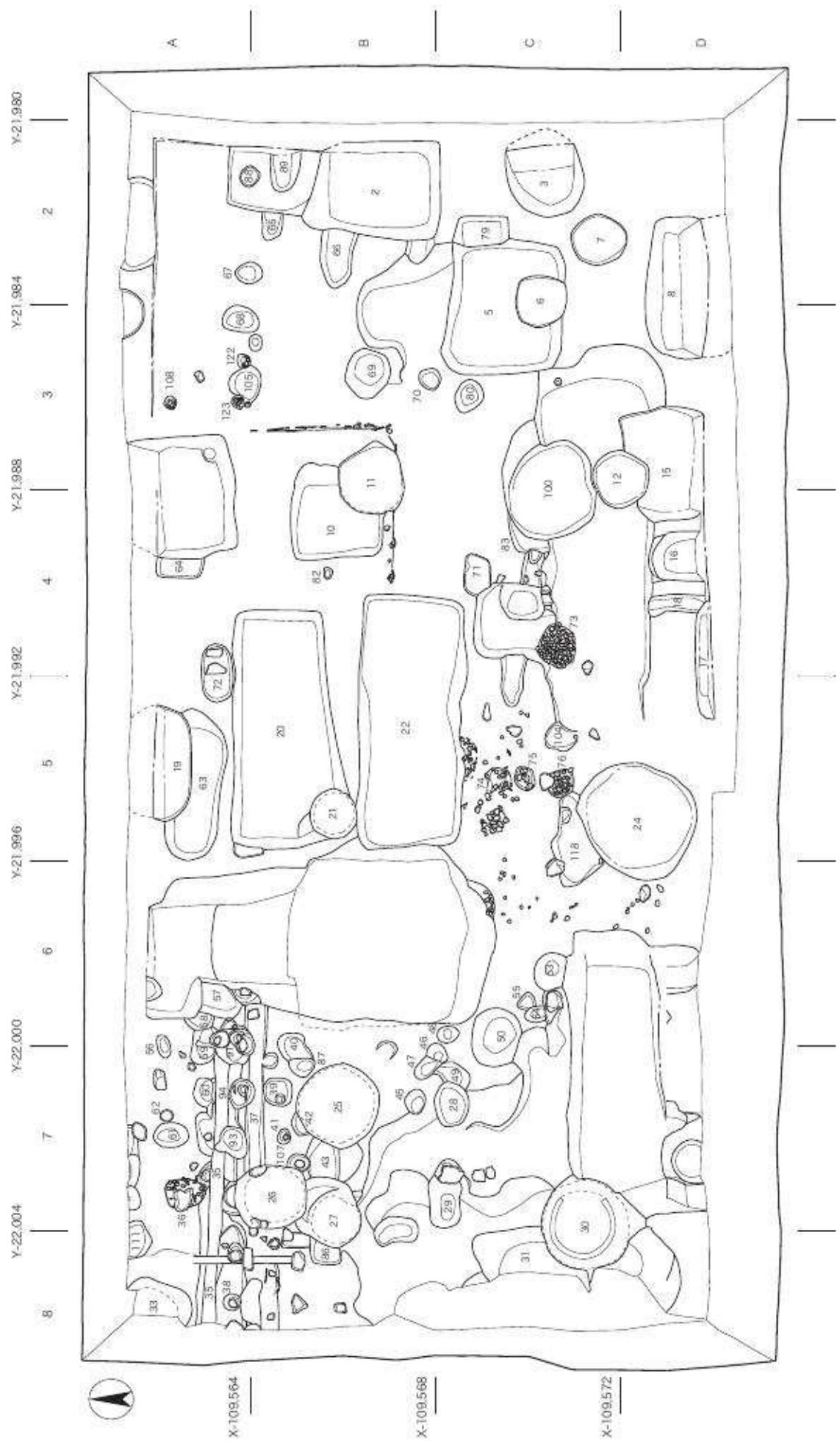
ふりがな	へいあんきょうさきょうさんじょうさんぼうじゅっちょ・にじょうどのおいけじょうあと						
書名	平安京左京三条三坊十町・二条殿御池城跡						
副書名							
卷次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	上村憲章						
編集機関	古代文化調査会						
所在地	〒 658-0032 神戸市東灘区向洋町中1丁目4番地 125-1404						
発行年月日	2015年9月30日						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
平安京左京 三条三坊十 町・二条殿 御池城跡	京都市中京区 烏丸御池上 る二条殿町 548-1 他	市町村 26100	00分 44秒	35度 45分 33秒	135度 2014.12.17 ～ 2015.04.09	505 m <sup>2</sup>	マンション 建設
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
平安京左京 三条三坊十 町・二条殿 御池城跡	都城跡・平城跡	平安時代～江戸 時代	溝、柱穴、土壙、 井戸、堀	土師器皿・甕、 須恵器鉢・甕、 灰釉陶器椀、綠 釉陶器椀、黒色 土器椀・瓦器鍋・ 皿、焼締陶器播 鉢・甕、国産陶 磁器椀・皿、輸 入磁器皿、瓦類	平安時代から中 世にかけての土 壙、柱穴、溝な ど検出。桃山時 代の堀検出。		

# 図 版



0 5m

第1調査区第1面平面実測図 (S=1/120)



遺跡 | 考図

y-21,980

y-21,984

y-21,988

y-21,992

y-21,996

y-22,000

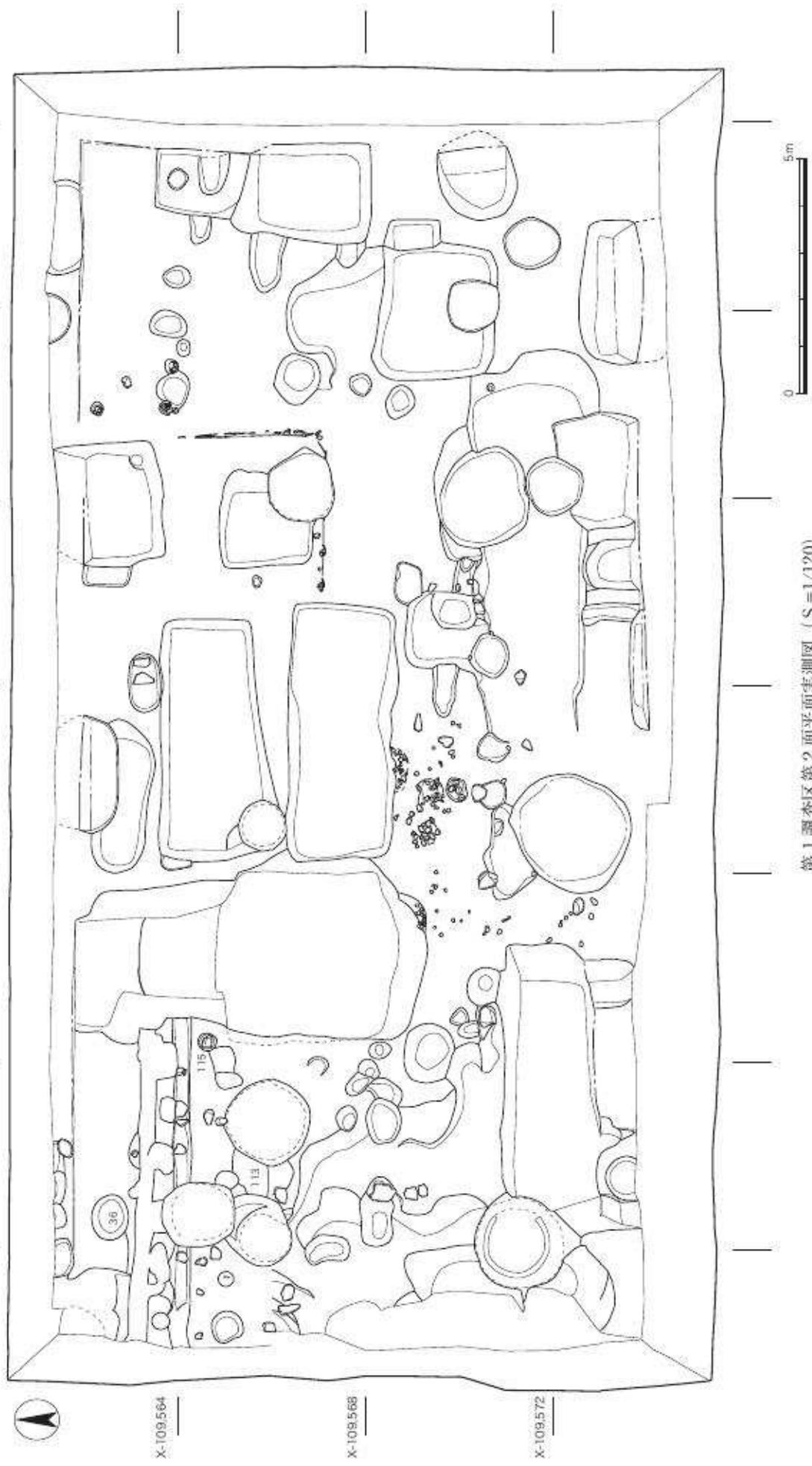
y-22,004



x-109,564

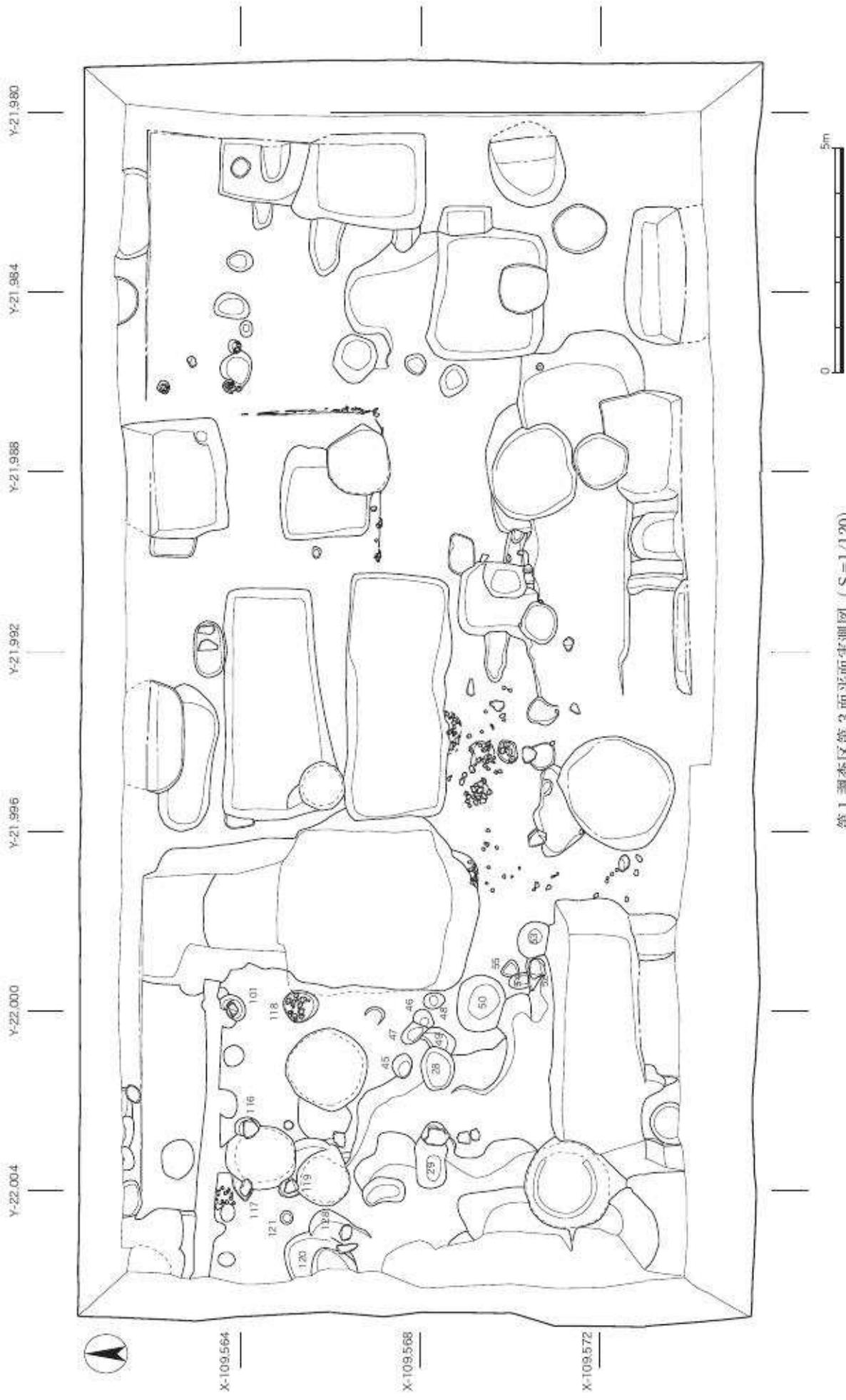
x-109,568

x-109,572



第1調査区第2面平面実測図 (S=1/120)

第1調査区第3面平面実測図 (S=1/120)



遺跡図

Y-21,980

Y-21,984

Y-21,988

Y-22,002

Y-22,006

Y-22,004

Y-22,008



X-109,564

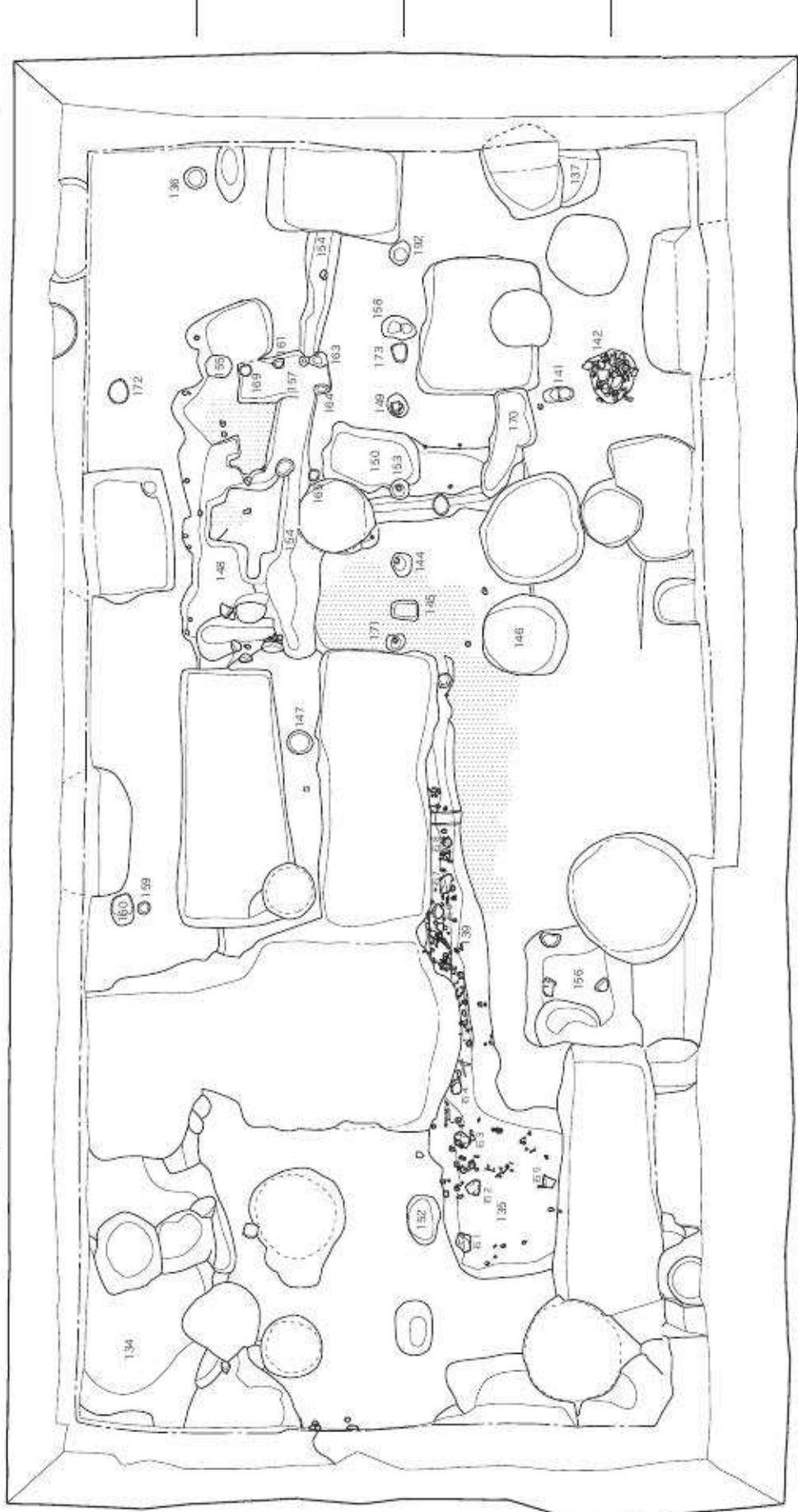
X-109,568

X-109,572

縮尺

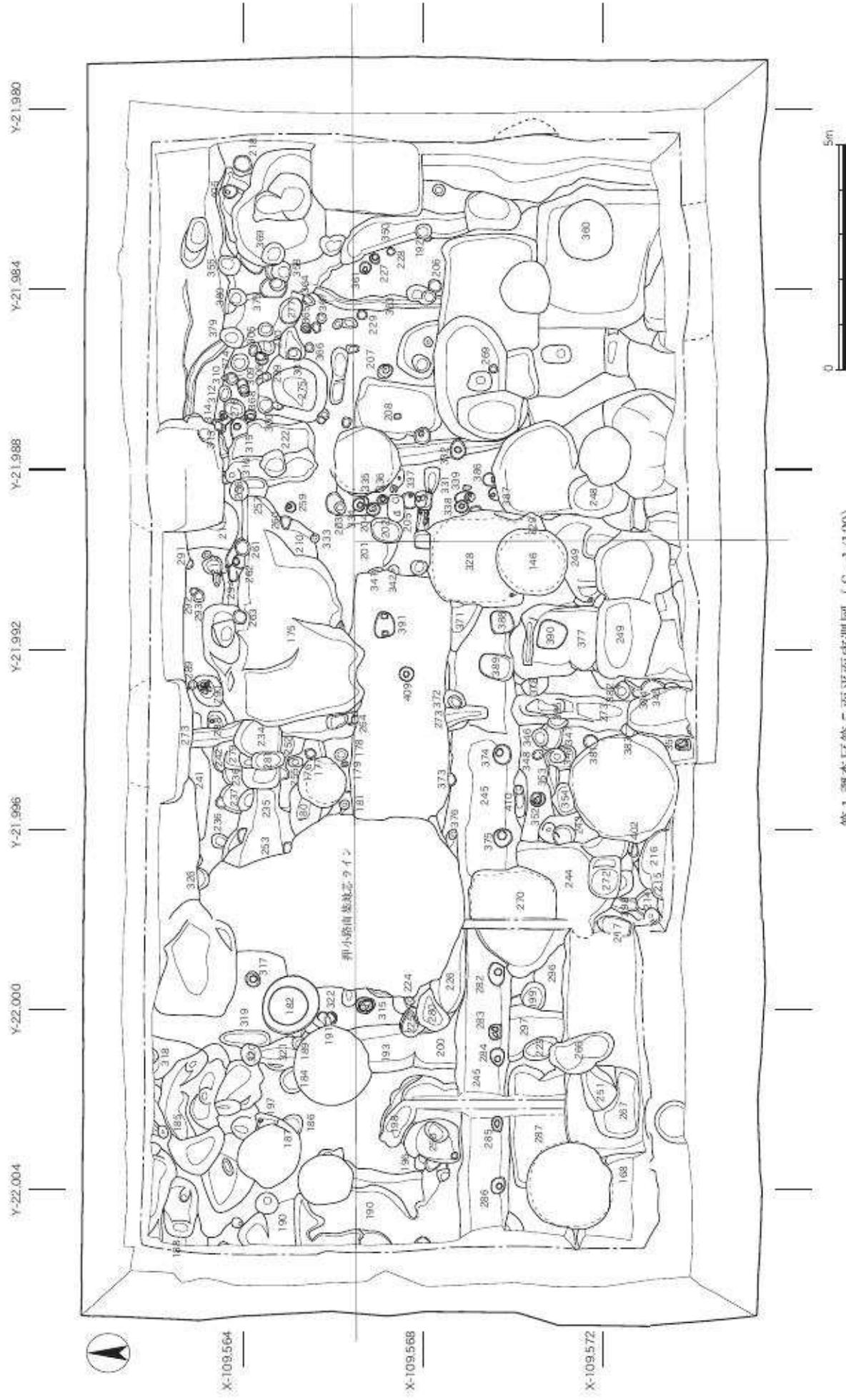
5m

第1 調査区第4面平面実測図 (S=1/120)

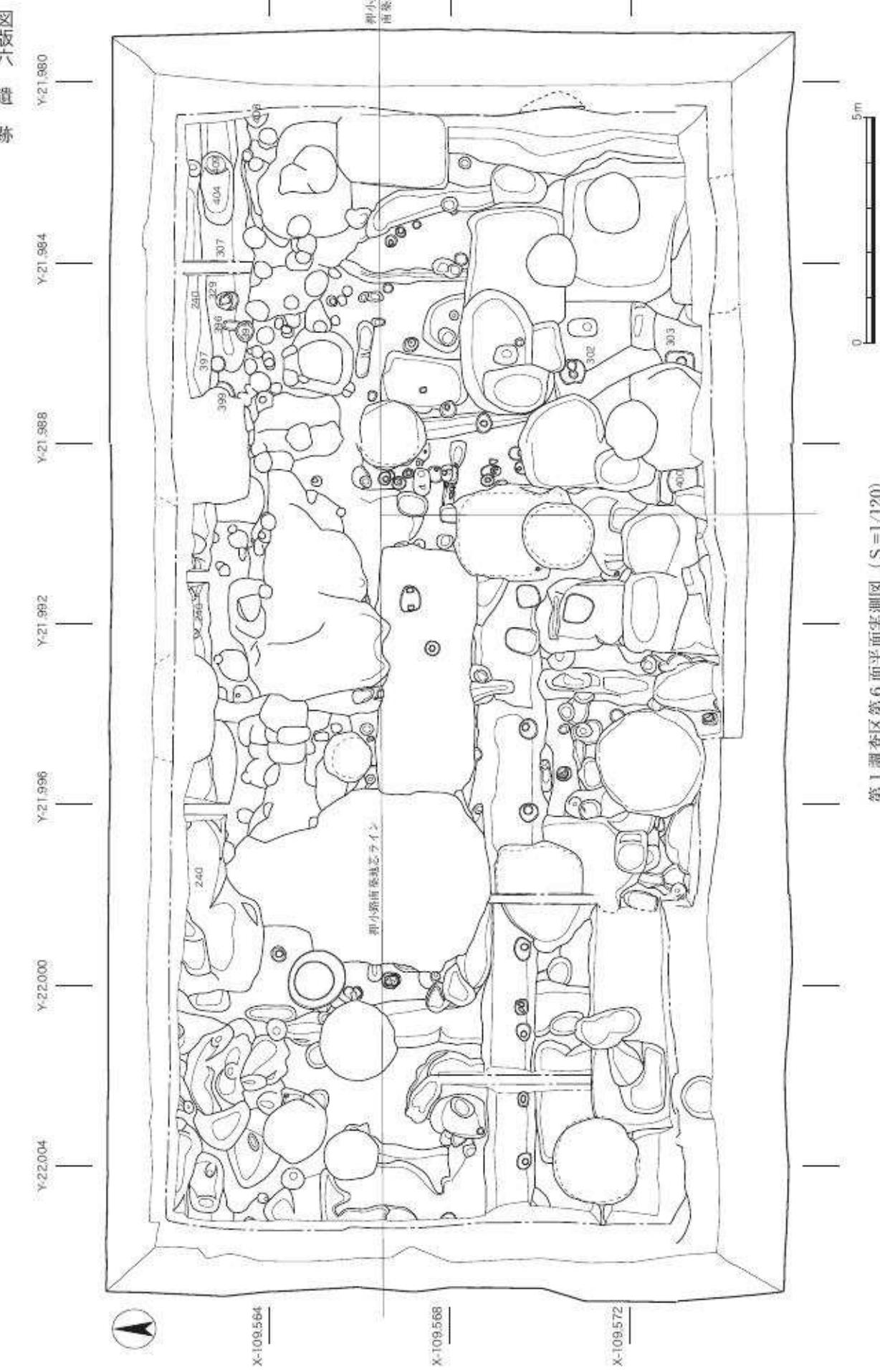


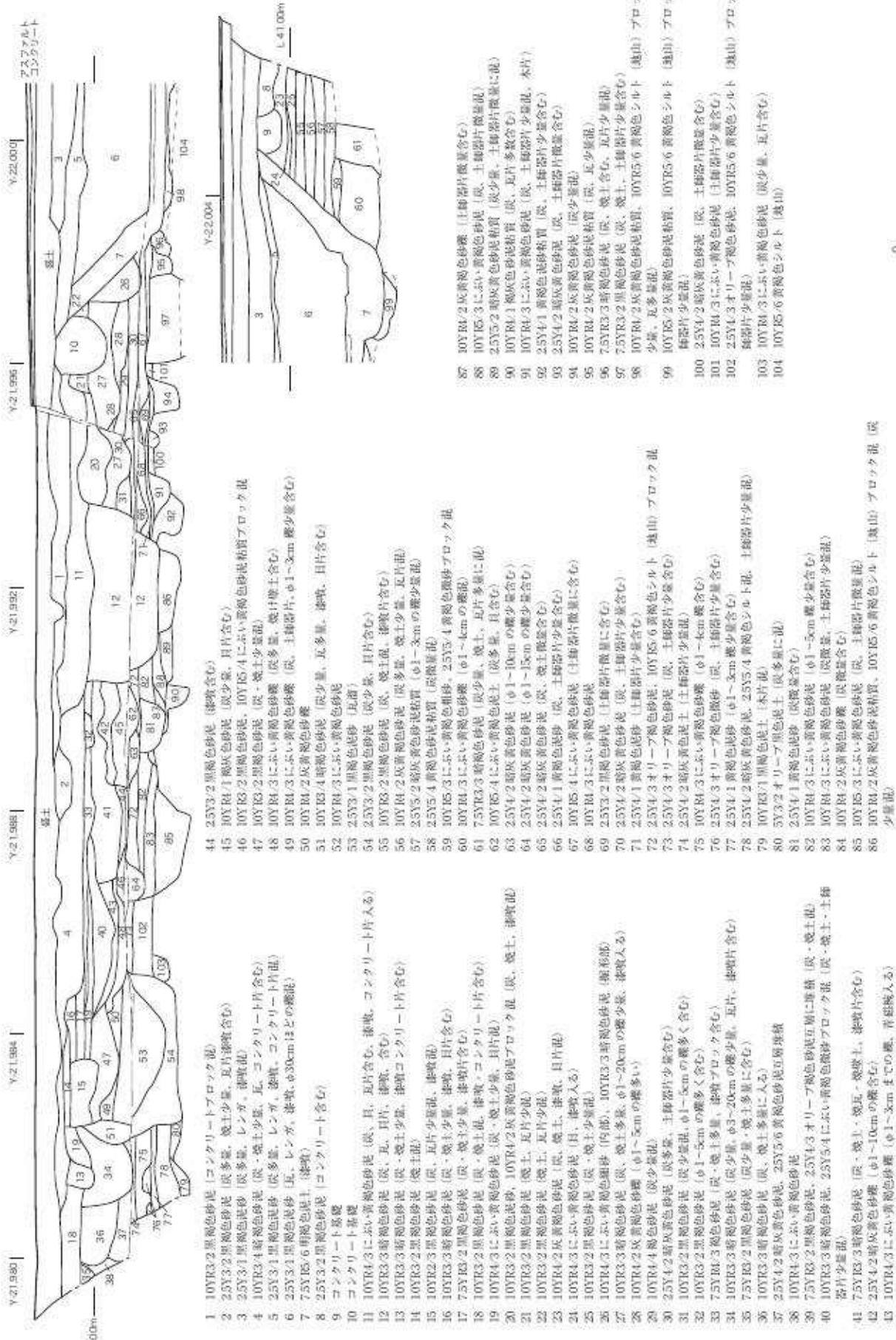
遺跡地図

第1調査区第5面平面実測図 (S=1/120)



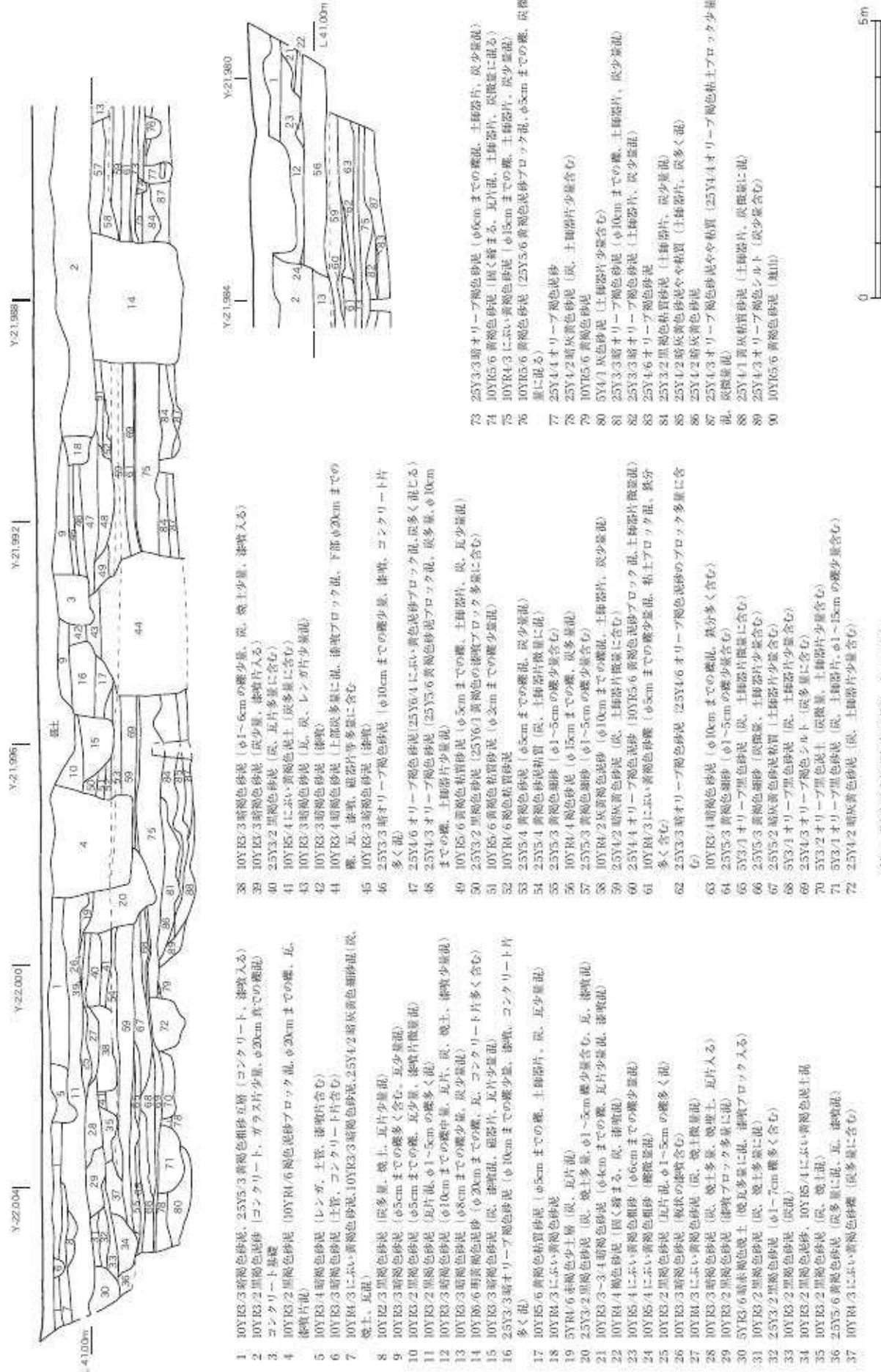
第1調査区第6面平面実測図 (S=1/120)





第 1 調査区南壁実測図 (1/100)

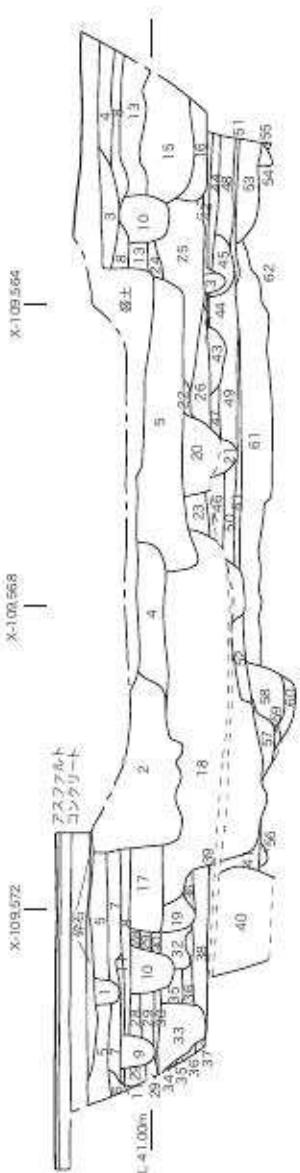
0 5m



第1調査区北壁実測図 (1/100)

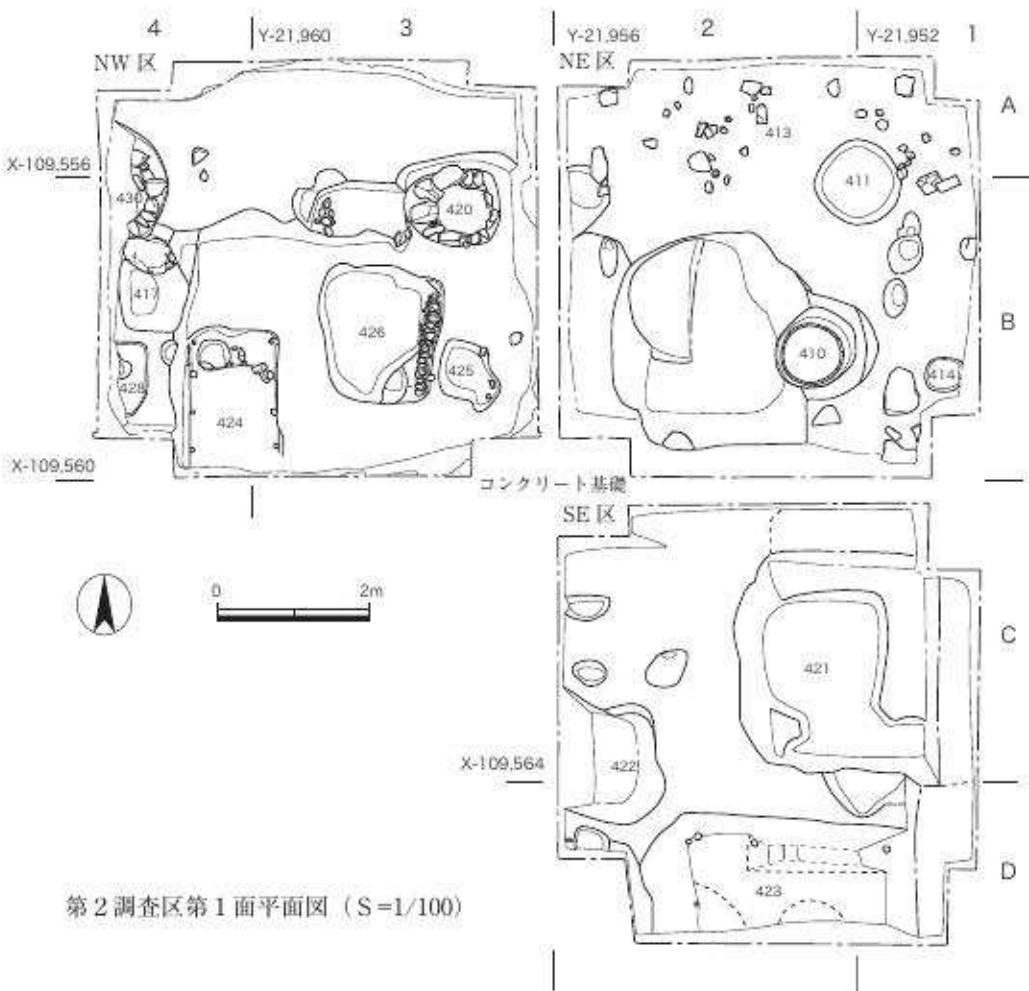


第1調査区西壁測図 (1/100)

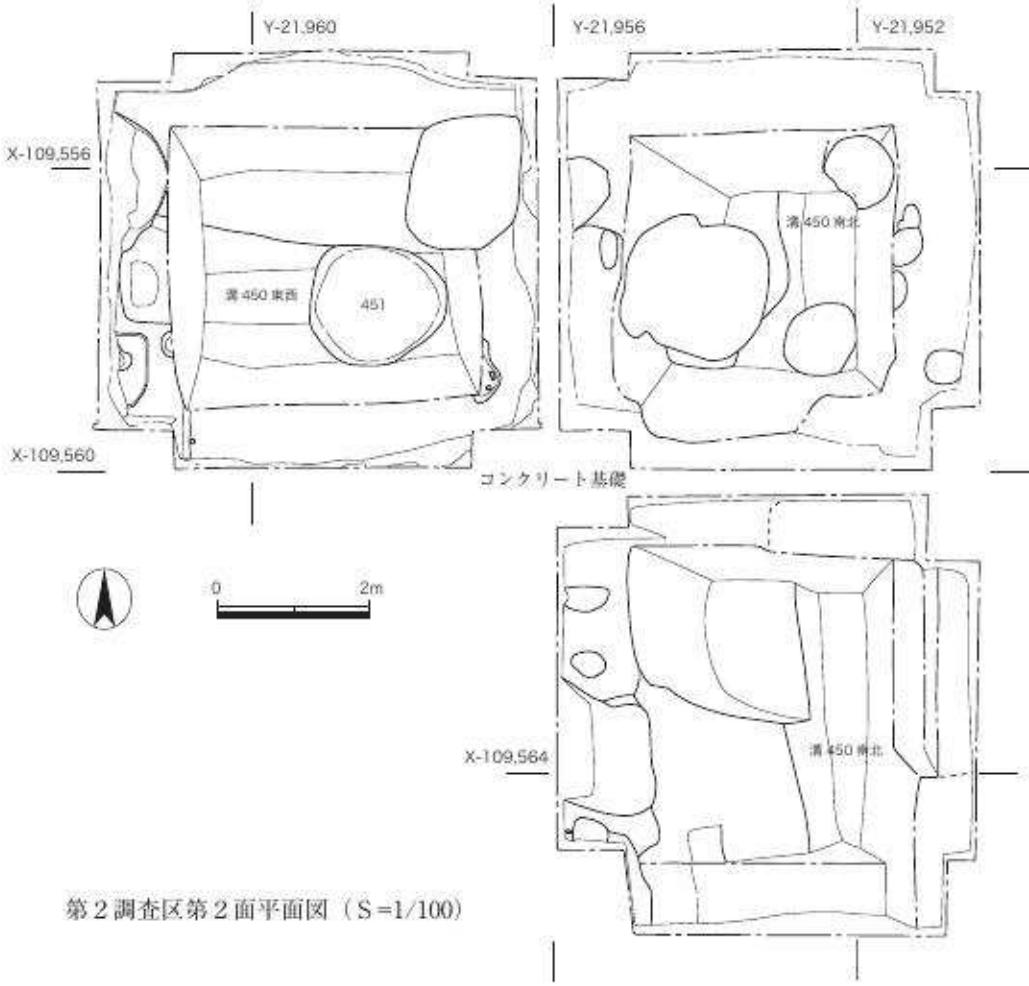


- 1 10YR3/2 黒褐色砂泥 (粘水質)  
2 25Y3/2 黑褐色砂泥 (コシクリートブロック、瓦等入る)  
3 25Y4/2 黄褐色砂泥  
4 10YR3/3 黑褐色砂泥、25Y3/3 黄褐色砂泥互層 (コンクリート、漆喰入る)  
5 10YR3/2 黑褐色砂泥 (漆喰、瓦、コンクリート下部)  
6 25Y3/2 黑褐色砂泥 (コシクリート含む)  
7 10YR3/3 黑褐色砂泥 (瓦少當、瓦片、漆喰、瓦片入る)  
8 10YR4/3 に25Y3/3 黄褐色砂泥、10YR3/3 黑褐色砂泥、25Y4/2 黑灰黄褐色砂泥互層、  
瓦片、瓦泥  
9 25Y3/2 黑褐色砂泥 (瓦、焼土少當量、漆喰混)  
10 10YR3/3 黑褐色砂泥、10YR4/3 に25Y3/3 黄褐色砂泥混  
11 10YR4/4 黑褐色泥  
12 25Y3/2 黑褐色砂泥 (瓦、土壤器片少當量)  
13 10YR3/2 黑褐色砂泥 (瓦、焼土混、レンガ内含む)  
14 25Y3/2 黑褐色砂泥 (瓦多當、61~2cm の塊多當、漆喰混)  
15 5YR4/6 黑褐色燒土 (瓦瓦多當に混、瓦、漆喰混)  
16 25Y5/6 黄褐色砂泥 (瓦多當、625cm の塊多當、漆喰混)  
17 10YR3/2 黑褐色砂泥 (瓦少當、625cm の塊多當、漆喰混)  
18 5YR3/4 黑褐色砂泥 (瓦、漆喰入る)  
19 10YR3/2 黑褐色砂泥 (瓦多當、漆喰混)  
20 10YR3/2 黑褐色砂泥 (瓦多當に混)  
21 10YR4/3 に25Y3/2 黑褐色砂泥 (瓦、土壤器片少當量)  
22 10YR4/3 に25Y3/2 黑褐色砂泥 (瓦多當、土壤器片少當量)  
23 10YR4/3 に25Y3/2 黄褐色砂泥 (瓦少當、瓦1~5cm の塊少當量)  
24 10YR3/3 黑褐色砂泥 (瓦、焼土、土壤器片少當量入る)  
25 10YR3/2 黑褐色砂泥 (瓦少當、漆喰混)  
26 25Y3/2 黑褐色砂泥 (瓦、土壤器片少當量)  
27 10YR4/2 黄褐色砂泥 (瓦、焼土、漆喰、瓦片混)  
28 10YR3/1 に25Y3/2 黄褐色砂泥 (瓦少當量)  
29 10YR3/2 黑褐色砂泥 (瓦、焼土少當量)  
30 10YR4/3 に25Y3/2 黄褐色砂泥 (瓦、焼土少當量)  
31 10YR2/3 黑褐色砂泥 (瓦、焼土多當に含む)  
32 10YR2/3 黑褐色砂泥 (瓦、焼土少當量)  
33 7.5Y3/2 黑褐色所泥 (コンクリート溝形)  
34 10YR3/2 黑褐色砂泥 (瓦、焼土多當に混、瓦片少當量)  
35 10YR4/2 黄褐色砂泥 (瓦多當、焼土少當量、瓦片混)  
36 25Y5/2 黑灰黄褐色砂泥 (瓦1~3cm の塊少當量)  
37 25Y5/4 黑褐色砂泥粘質 (瓦、土壤器片少當量入る)  
38 25Y4/3 に25Y3/2 黑褐色砂泥 (瓦少當、焼土、瓦片多當に混)  
39 10YR4/3 に5YR4/6 黄褐色砂泥 (瓦1~3cm の塊少當量入る)  
40 7.5Y3/3 3断面包脚泥 (瓦少當、焼土、瓦片多當に混)  
41 10YR4/2 黑褐色砂泥 (瓦、土壤器片少當量)  
42 25Y5/3 黑褐色砂泥 (瓦1~5cm の塊少當量)  
43 5YR4/6 黄褐色砂泥 (瓦少當量)  
44 5Y3/1 オリーブ黒褐色砂泥 (瓦、土壤器片少當量に含む)  
45 25Y5/3 黄褐色砂泥 (瓦1~3cm の塊少當量)  
46 25Y4/2 黑灰黄褐色砂泥 (瓦多當、土壤器片少當量)  
47 25Y5/2 黑灰黄褐色砂泥 (瓦少當量、瓦1~5cm の塊少當量)  
48 25Y5/3 黄褐色砂泥 (瓦塊量、土壤器片少當量入る)  
49 10YR4/1 黑褐色砂泥 (土壤器片少當量)  
50 25Y4/2 黑灰黄褐色砂泥 (瓦、土壤器片少當量)  
51 7.5Y3/1 オリーブ黒褐色砂泥 (土壤器片少當量)  
52 25Y4/2 黑灰黄褐色砂泥 (土壤器片少當量)  
53 25Y4/2 黑灰黄褐色砂泥 (瓦、土壤器片少當量)  
54 10YR4/2 黑灰黄褐色砂泥 (土壤器片少當量)  
55 5Y4/1 黑色砂泥 (土壤器片少當量)  
56 10YR4/3 に25Y3/2 黄褐色砂泥 (土壤器片少當量)  
57 10YR4/3 に25Y3/2 黄褐色砂泥 (瓦、瓦片少當量)  
58 25Y4/3 オリーブ黒褐色瓦土 (瓦多當に入る)  
59 10YR4/3 に25Y3/2 黄褐色砂泥 (瓦、瓦片少當量)  
60 25Y5/2 黑灰黄褐色砂泥 (土壤器片少當量)  
61 10YR4/2 黑灰黄褐色砂泥 (土壤器片少當量)  
62 10Y4/2 オリーブ黒褐色砂泥 (瓦)

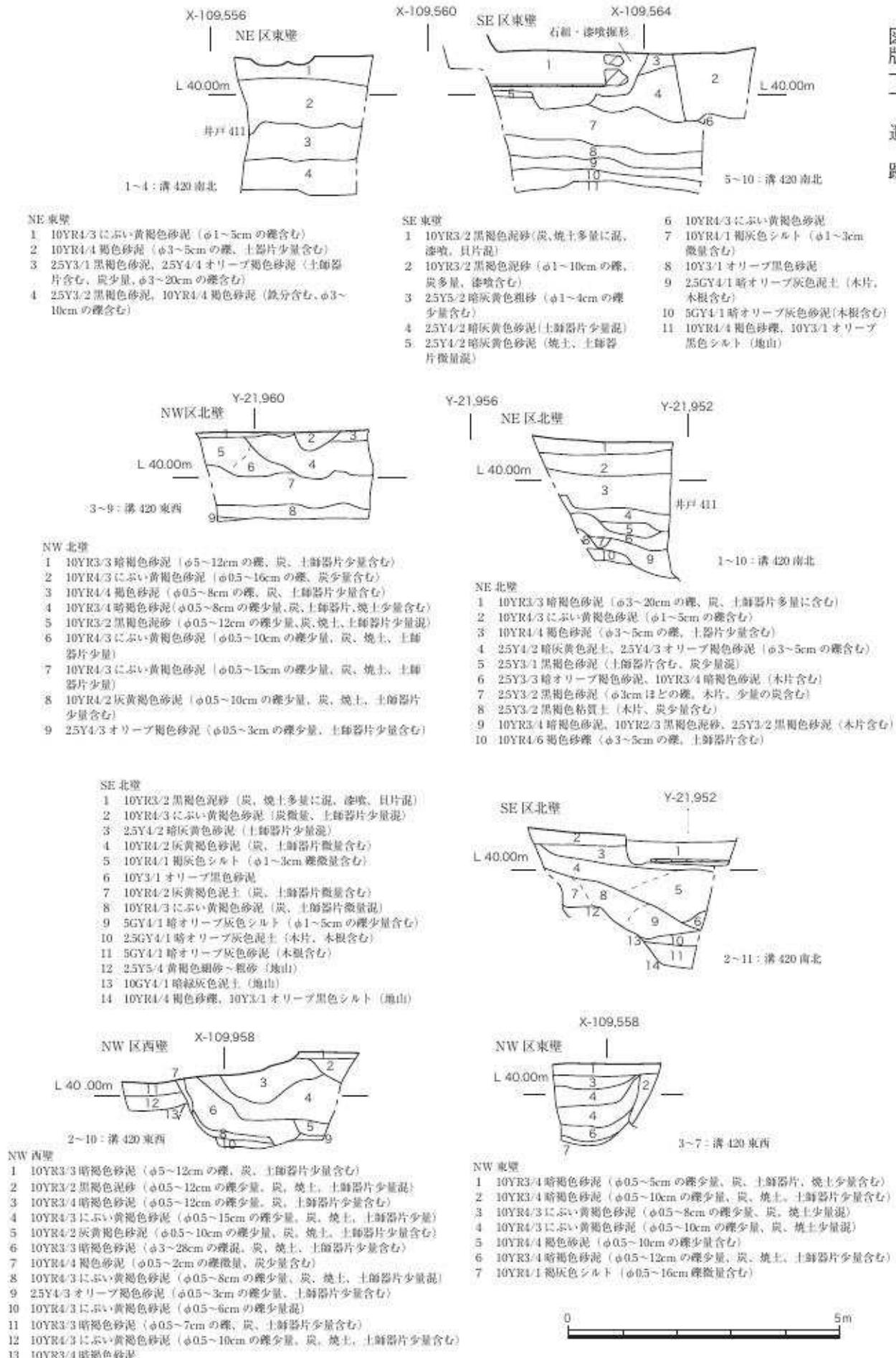
図版一  
○遺跡



第2調査区第1面平面図 (S=1/100)



第2調査区第2面平面図 (S=1/100)



第2調査区壁面実測図 (S=1/100)



1 第1調査区調査前風景（東から）



2 第1調査区第1面西部（北から）



1 第1調査区第2面西部（北から）



2 第1調査区第3面全景（東から）



1 第1調査区第3面西部（東から）



2 第1調査区第4面全景（東から）



1 第1調査区第5面全景（東から）



2 第1調査区第6面全景（東から）



1 第1調査区溝 240（西から）



2 第1調査区溝 240（東から）



3 第1調査区溝 240（西から）



4 第1調査区溝 240 セクション（西から）



5 第1調査区Y -22,002 mセクション（西から）



6 第1調査区Y -21,998 mセクション（西から）



7 第1調査区柱穴 315（南から）



8 第1調査区柱穴 368（南から）



1 第1調査区柱穴 351（西から）



2 第1調査区柱穴 272（西から）



3 第1調査区柱穴 283（北から）



4 第1調査区柱穴 325（西から）



5 第1調査区柱穴 290（西から）



6 第1調査区土壠 135・139（西から）



7 第1調査区土壠 148 跛敷部分（南から）



8 第1調査区土壠 155 土器出土状況（西から）



1 第2調査区調査前風景（南から）



2 第2調査区NE区第1面（南東から）



1 第2調査区 SE区第1面（南東から）



2 第2調査区 NW区第1面（西から）



1 第2調査区NE区第2面、溝450南北（東から）



2 第2調査区NE区第2面、溝450南北（南西から）



1 第2調査区 SE区第2面、溝450南北（南東から）



2 第2調査区 SE区第2面、溝450南北（北から）



1 第2調査区 NW区第2面、溝450東西（南から）



2 第2区調査 NW区第2面、溝450東西（南東から）



1 第2調査区 NW 区土壤 424 (北から)



2 第2調査区 NE 区土壤 413 (北から)



3 第2調査区 NE 区土壤 413 (東から)



4 第2調査区 NW 区井戸 420 (北から)



5 第2調査区 NW 区土壤 426 (西から)



6 第2調査区 NW 区井戸 430 (西から)

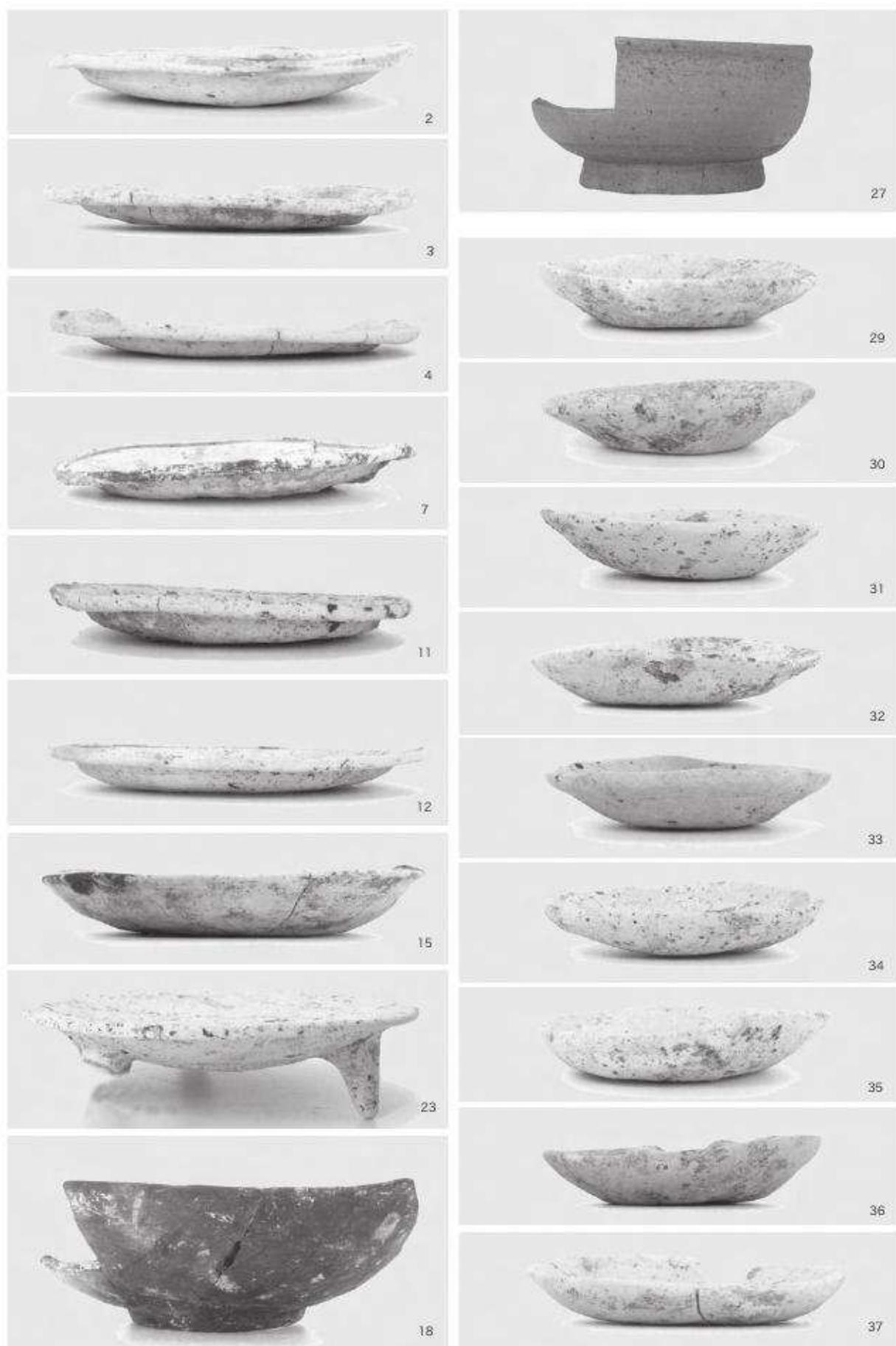


7 第2調査区全景 (北西から)

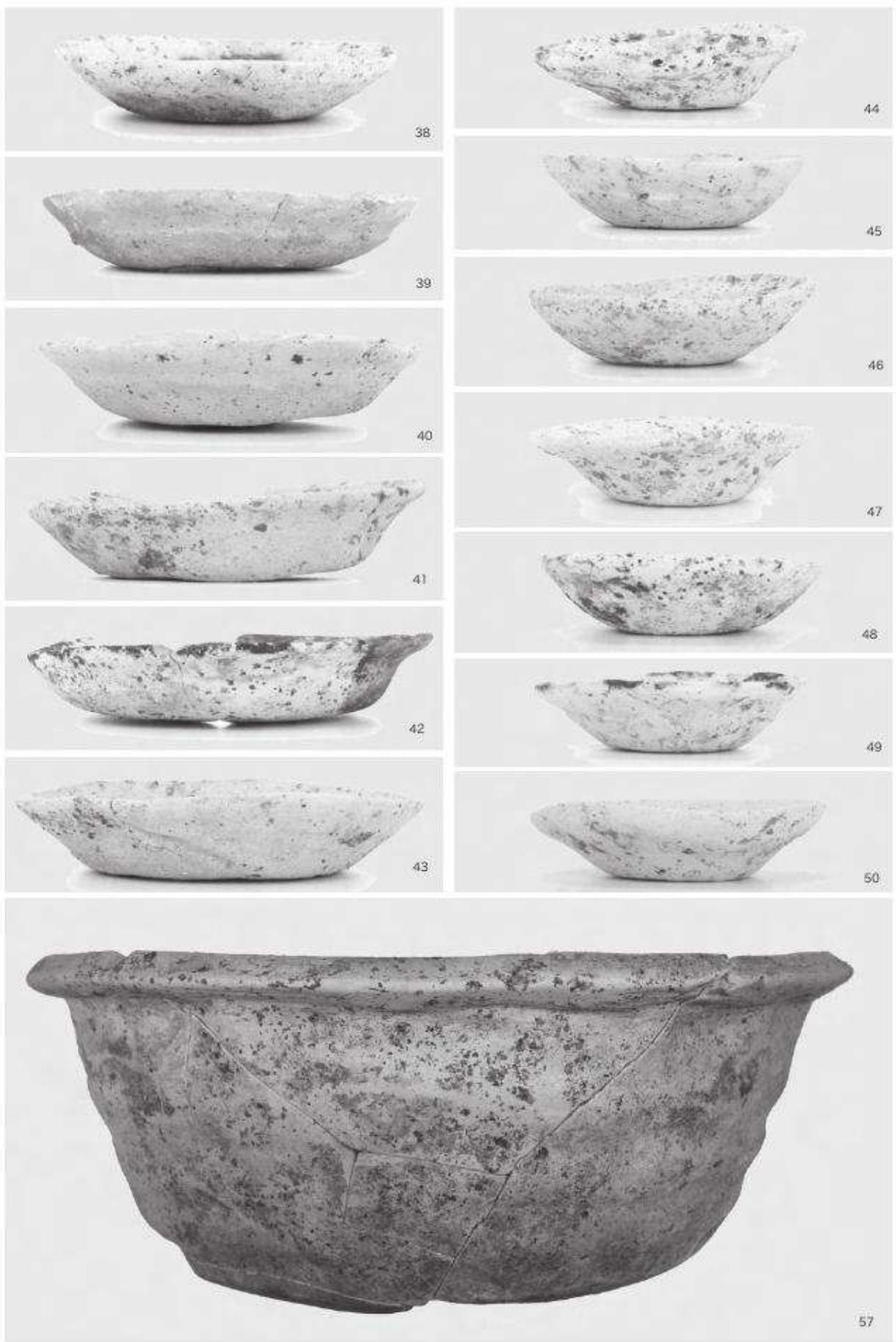


8 第2調査区全景 (南西から)

図版一四  
遺物

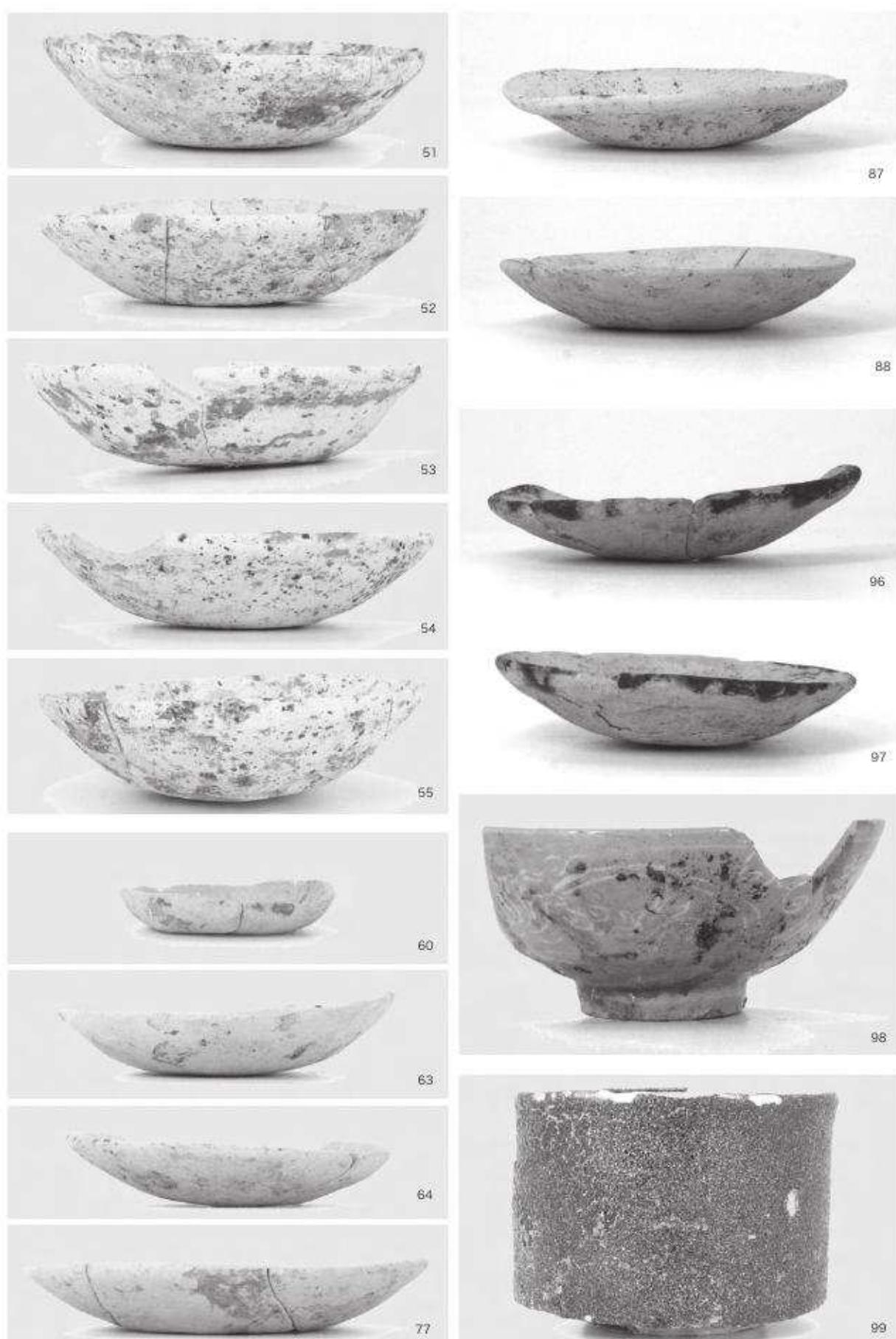


第1調査区溝240（2～4・7・11・12・15・18・23・27）・第1調査区土壤175（29～37）出土遺物



第1調査区土壙175 (38~50・57)

図版二六  
遺物



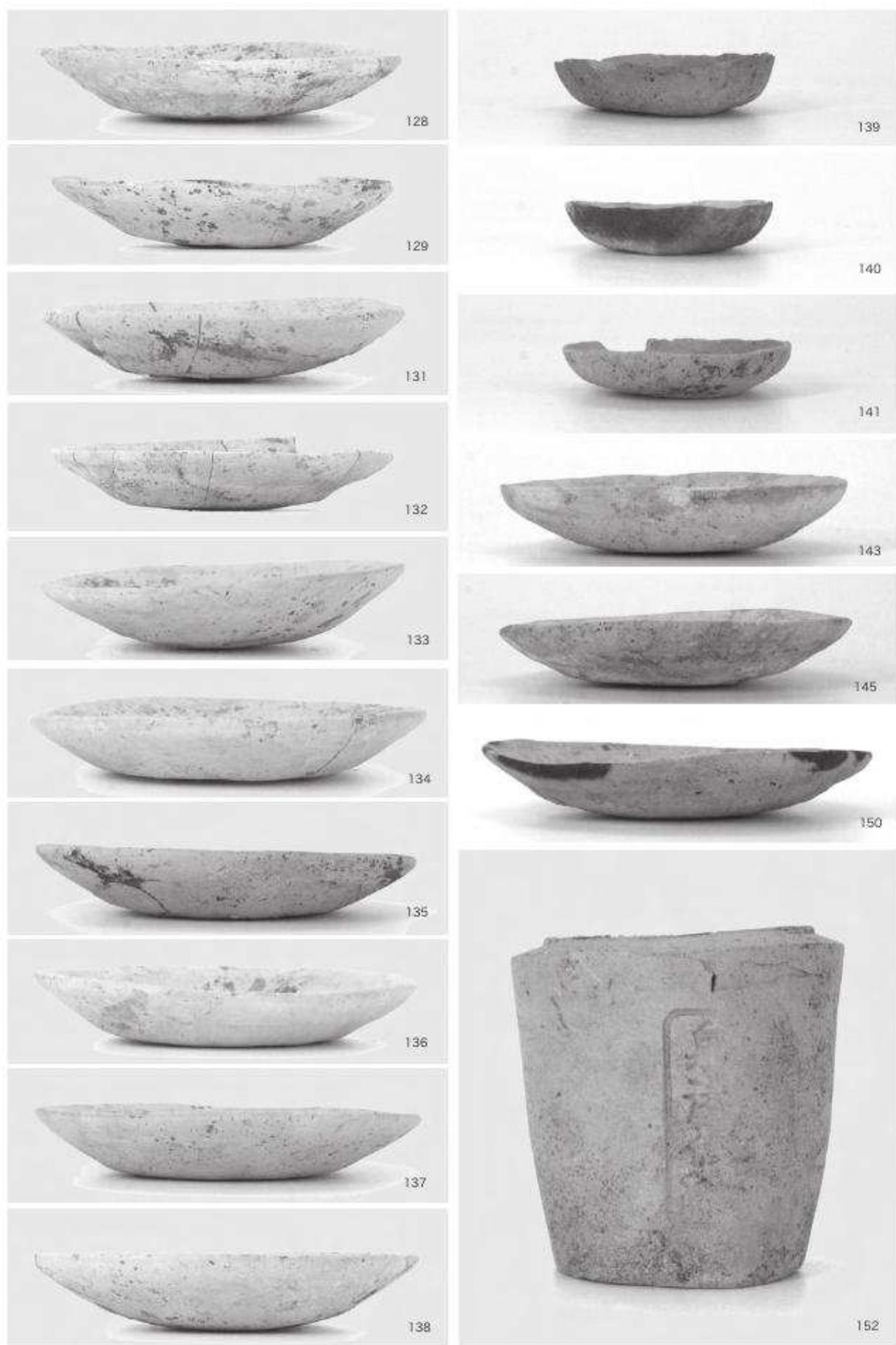
第1調査区土壤 175 (51～55)・第1調査区溝 245 (60・63・64・77)・第2調査区溝 450 (87・88)・第2調査区  
土壤 426 (96・97)・第1調査区土壤 120 (98) 第1調査区土壤 230 (99) 出土遺物

図版二七  
遺  
物



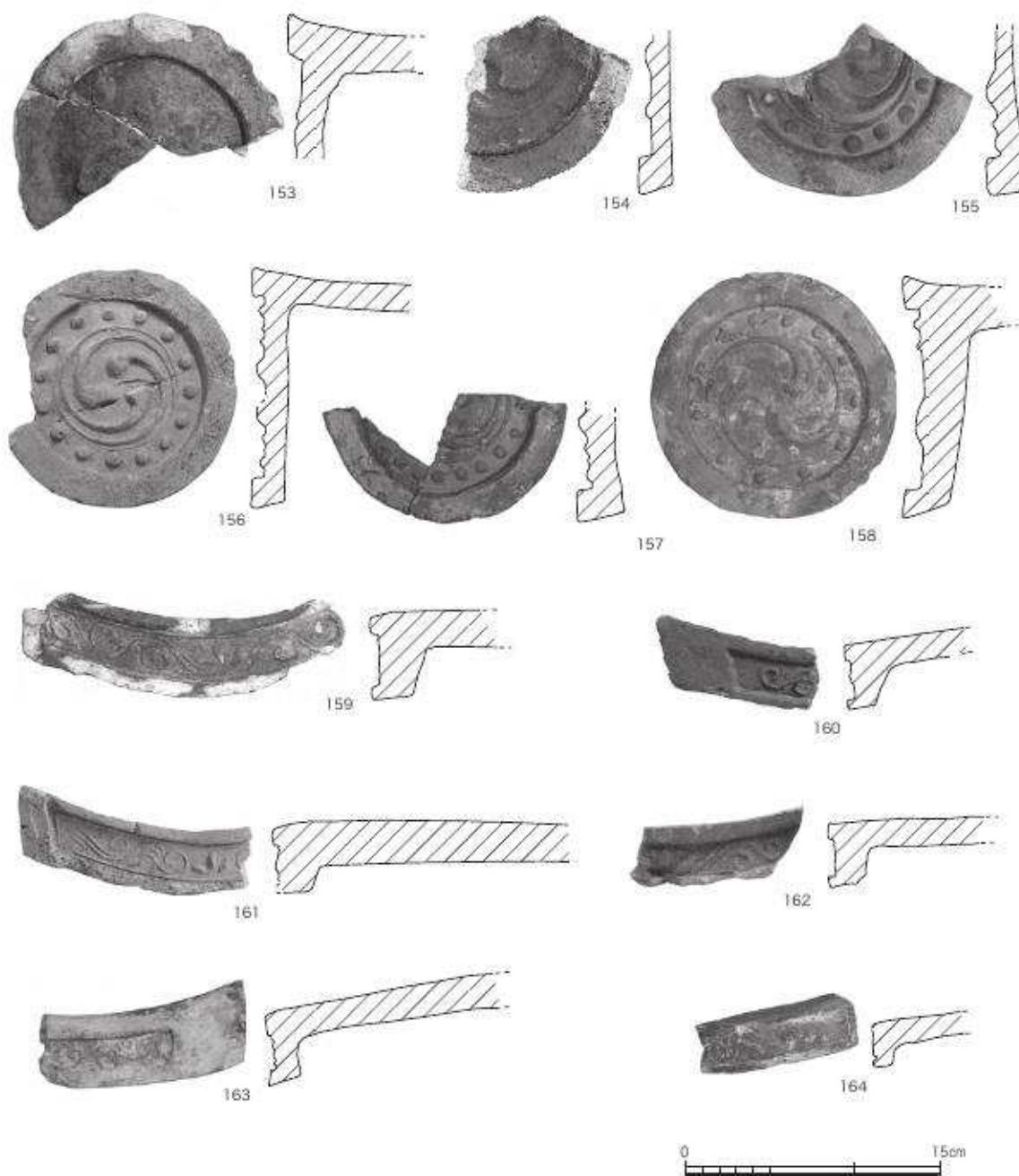
第1調査区土壙155出土遺物

圖版一八  
遺物



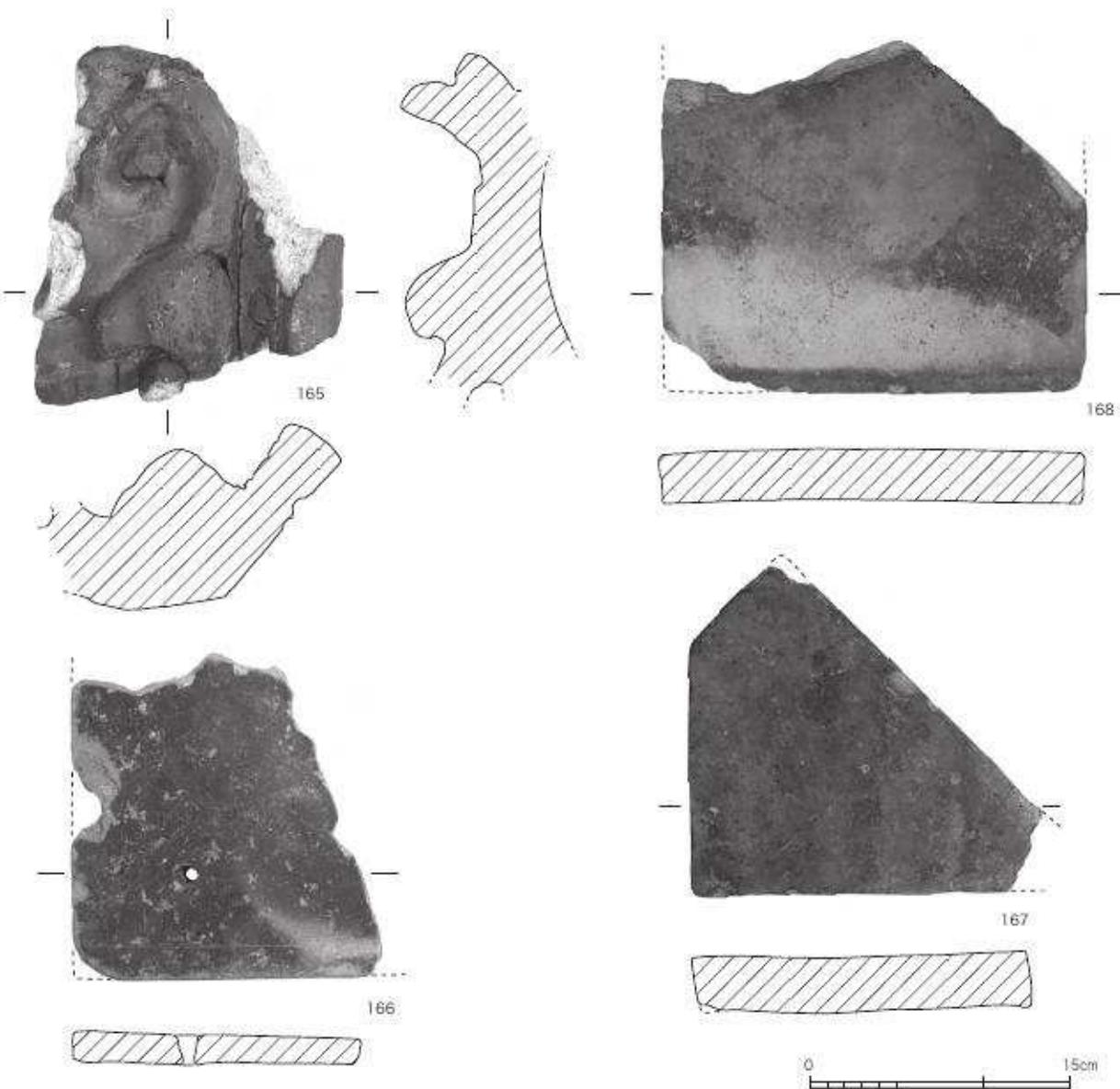
第1調査区土壤 155 (128・129・131～138)・第2調査区井戸 411 (139～141・143・145・150・152) 出土遺物

図版一九 遺物

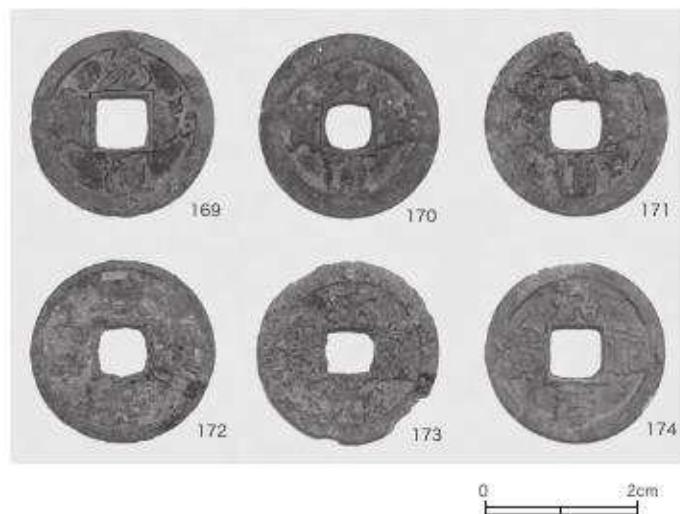


第1調査区土壤113(153・154)・第2調査区土壤426(155)・第1調査区土壤120(156・160・162)・第1調査区溝245(157~159・161・163)・第1調査区土壤100(163)・第1調査区土壤175(164)出土瓦写真・実測図(S=1/4)

図版二〇  
遺物



第1調査区土壤113出土鬼瓦・敷壇写真・実測図 (S=1/4)



第1調査区第2面掘下時 (169)・第1調査区土壤156 (170・172・173)・第1調査区土壤135 (171)・第1調査区土壤200 (174) 出土錢貨写真 (S=1/1)

平安京左京三条三坊十町  
二条殿御池城跡

発行日 2015年9月30日

編集発行 古代文化調査会

住所 〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中1-4-125-1404  
TEL (078) 857-6368

印刷 (有)京都編集工房  
〒612-0868 京都市伏見区深草直達橋南1-524-24  
TEL (075) 643-6978





